

第5次南箕輪村男女共同参画行動計画 策定のためのアンケート調査

報告書

令和3年2月

南 箕 輪 村

目 次

アンケート概要	1
調査結果（単純集計）	3
【回答者の属性】	3
問 1 性別	3
問 2 年齢	4
問 3 職業	5
問 4 結婚の状況	6
問 5 家族構成	6
【男女共同参画に関する事項】	7
問 6 家庭内における仕事と家事の役割分担	7
問 7 男女共同参画に関連する言葉の認知度	9
問 8 様々な立場や地位における平等感	12
問 9 男女共同参画社会のイメージ	14
問 10 性別によって役割を固定する考え方について	16
問 11 女性が家庭と仕事の両立に負担となっていること	17
問 12 男性が家事や子育てに積極的に参加できない理由	18
問 13 「男も家事、育児、介護に参加する」の考え方について	19
問 14 重要なポストや決定権などへの女性登用について	20
問 15 国や自治体における女性登用について	21
問 16 区の役員やPTA会長などへの女性進出について	22
問 17 男女共同参画社会実現のための市の施策について	24
調査結果（クロス集計）	26
1.回収状況	26
性別×回収状況	26
2.性別と年齢	27
3.家庭内における仕事と家事の役割分担（問 6）	28
性別×問 6	28
年齢×問 6	28
4.男女共同参画に関連する言葉の認知度（問 7）	29
年齢×問 7	29

5.様々な立場や地位における平等感（問 8）	31
性別×問 8.....	31
年齢×問 8.....	32
結婚状況×問 8	36
6.性別によって役割を固定する考え方（問 10）	37
性別×問 10.....	37
年齢×問 10.....	37
性別×家庭での家事の役割分担（問 6）×問 10.....	38
7.女性が家庭と仕事の両立に負担となっていること（問 11）	39
性別×問 11.....	39
結婚状況×問 11.....	39
職業×問 11.....	40
家族構成×問 11	41
性別×年齢×問 11.....	42
8.男性が家事や子育てに積極的に参加できない理由（問 12）	43
結婚状況×問 12	43
家庭での家事の役割分担（問 6）×問 12.....	44
9.重要なポストや決定権などへの女性登用について（問 14）	45
性別×問 14.....	45
10.国や自治体における女性登用について（問 15）	45
性別×問 15.....	45
11.区の役員やPTA会長などへの女性進出について（問 16）	46
性別×問 16.....	46
家庭での家事の役割分担（問 6）×問 16.....	46
性別×家庭での家事の役割分担（問 6）×問 16.....	47

※年齢別の集計について、18歳・19歳は回答数が少ないため、当該の年代の考察は行わないこととした。

アンケート概要

1. 実施の目的

第5次男女共同参画行動計画の策定にあたり、家庭での男女の役割や男女共同参画に対する考え方の変化等について把握することにより、計画策定のための基礎資料とすることを目的とした。

2. 調査対象者

住民基本台帳における18歳から75歳までの1,000人を調査対象者として抽出した。

3. アンケート調査の信頼度確認

本調査の信頼度等の確認を、次に示した公式を用いて行った。なお、公式中の母比率は、標本数が最大となる二者択一（50%）を用いることとした。

$$\text{標本数} = \frac{\text{母集団の数}}{1 + \frac{(\text{母集団の数} - 1)}{(1 - \text{母比率}) \times \text{母比率}} \times \left[\frac{\text{誤差率}}{\text{信頼度係数}} \right]^2}$$

信頼度係数表

信頼度 (%)	68.3	90.0	95.0	95.4	99.0	99.7
信頼度係数	1.000	1.645	1.960	2.000	2.576	3.000

標本数検討表（南箕輪村 平成31年1月1日総人口による）

母集団	標本数	信頼度	誤差率	母比率	信頼度係数
10,375	264	90.0%	5.0%	0.5	1.645
10,375	371	95.0%	5.0%	0.5	1.960
10,375	624	99.0%	5.0%	0.5	2.576
10,375	829	99.7%	5.0%	0.5	3.000

※母集団の値は、20歳から74歳の人口

以上の計算により、標本数が371名以上であれば信頼度95%、誤差率±5%が確保されることとなる。今回の調査では、450名の回答が得られたことから、概ね信頼度95%、誤差率5%以上が確保されているといえる。

4. 実施経緯

6 月	調査票原案作成
7 月 6 日	行政推進会議幹事会にて検討
7 月 17 日	計画策定委員会にて検討
7 月 27 日～	発送準備
7 月 29 日	メール便にて発送
8 月 11 日	回収締め切り（郵送もしくは教育委員会持参）
9 月	単純集計作業
10 月	行政推進会議に単純集計結果を報告
	計画策定委員会に単純集計結果を報告
	クロス集計作業
12 月	行政推進会議幹事会にクロス集計結果を報告
	計画策定委員会にクロス集計結果を報告
2 月	行政推進会議に策定のためのアンケート調査結果(本調査結果)を報告
	計画策定委員会に策定のためのアンケート調査結果(本調査結果)を報告

調査結果（単純集計）

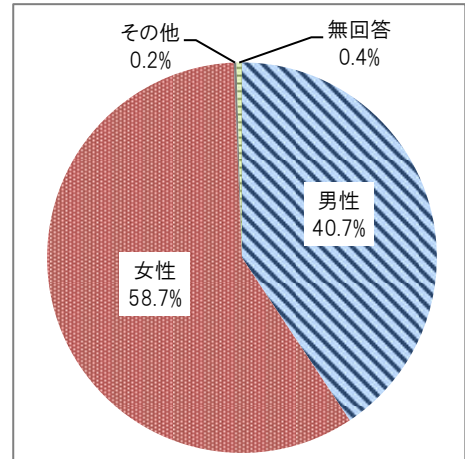
【回答者の属性】

問 1 性別

あなたの性別をお答えください。

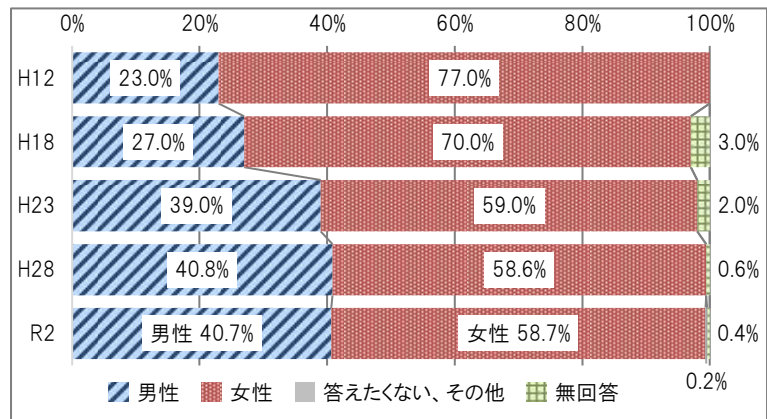
回答者の性別は、女性が 58.7% に対し男性が 40.7% となっている。

	回答項目	回答数	構成比
1.	男性	183	40.7%
2.	女性	264	58.7%
3.	答えたくない、その他	1	0.2%
4.	無回答	2	0.4%
	計	450	100.0%



【過去調査との比較】

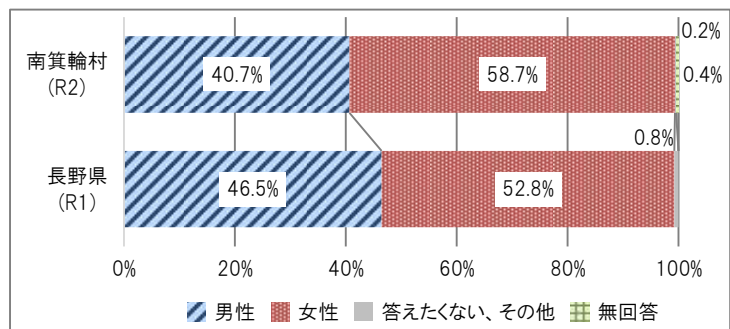
男性の回答が次第に多くなってきており、H12 はわずか 23% だったが、H28 以降は 40% を超えるまで上昇している。



※H28 調査より「答えたくない、その他」の選択肢を追加。

【長野県調査との比較】

回答者の男性比率は、長野県で 46.5% となっており、南箕輪村の方が低くなっている。



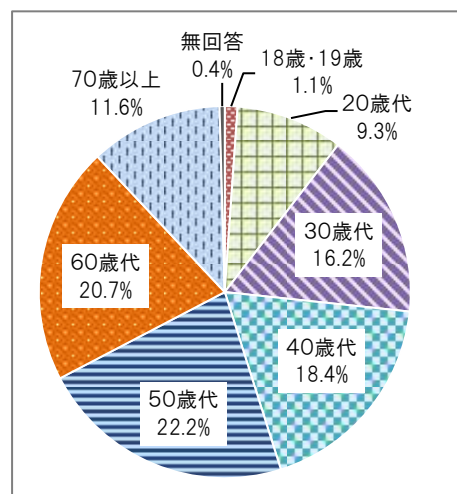
資料：令和元年度長野県男女共同参画に関する県民意識調査

問2 年齢

あなたの年齢をお答えください。

回答者の年代は、「30 歳代」から「60 歳代」までが 16%～22%と、各年代で均等に回答が得られている。「20 歳代」は 9.3%にとどまっている。

	回答項目	回答数	構成比
1.	18歳・19歳	5	1.1%
2.	20歳代	42	9.3%
3.	30歳代	73	16.2%
4.	40歳代	83	18.4%
5.	50歳代	100	22.2%
6.	60歳代	93	20.7%
7.	70歳以上	52	11.6%
8.	無回答	2	0.4%
	計	450	100.0%



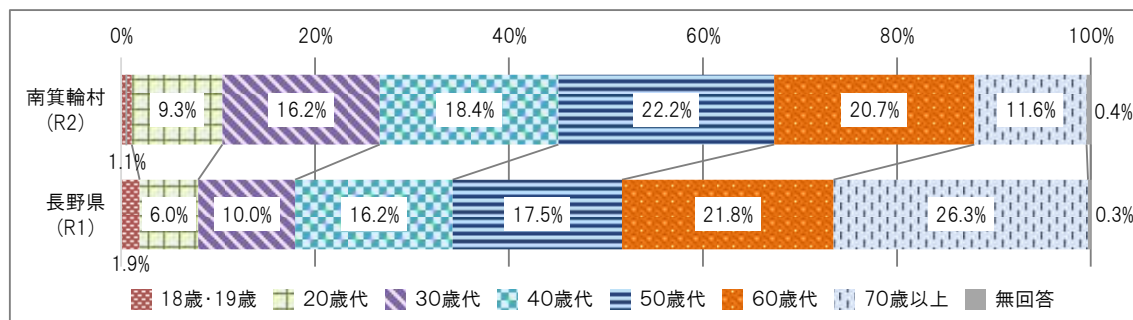
[過去調査との比較]

各年の調査対象が下表のとおり異なるため、年齢における過去との比較は行わない。

調査年	調査対象年齢
平成 12 年	20～70 歳代
平成 18 年	20～70 歳代
平成 23 年	20～60 歳代
平成 28 年	20～60 歳代
令和 2 年	18～70 歳代

[長野県調査との比較]

長野県は 70 歳以上が 26.3%と最も多くを占め、次いで 60 歳代が 21.8%となっている。南箕輪村は各年代で均等に回答が得られていることから、回答者の年齢構成は、長野県より若いといえる。



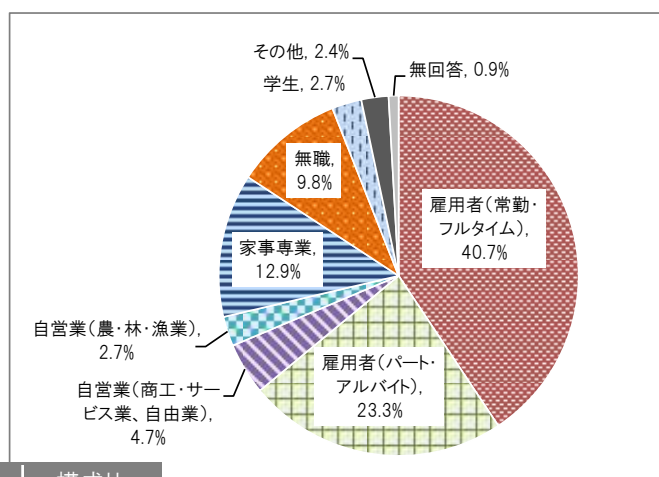
※県調査対象年齢は 18 歳以上の年齢制限なし

問3 職業

あなたの職業をお答えください。

回答者の職業は、「雇用者（常勤・フルタイム）」が40.7%で最も多く、次に「雇用者（パート・アルバイト）」が23.3%であり、雇用者が64.0%と多くを占めている。

また、家事専業は、12.9%、自営業は7.4%であった。



<その他の記述>

会社役員／教育／交通事故のケガで生保／障害者支援センター／農業主婦

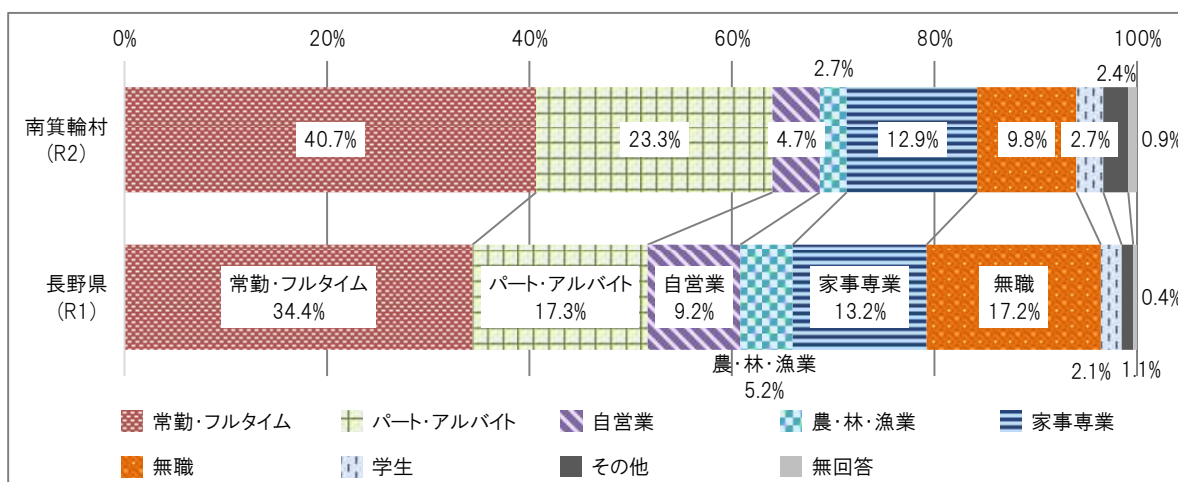
	回答項目	回答数	構成比
1.	雇用者(常勤・フルタイム)	183	40.7%
2.	雇用者(パート・アルバイト)	105	23.3%
3.	自営業(商工・サービス業、自由業)	21	4.7%
4.	自営業(農・林・漁業)	12	2.7%
5.	家事専業	58	12.9%
6.	無職	44	9.8%
7.	学生	12	2.7%
8.	その他	11	2.4%
9.	無回答	4	0.9%
	計	450	100.0%

[過去調査との比較]

各年の調査対象が異なるため、職業における過去との比較は行わない。

[長野県調査との比較]

雇用者（「常勤・フルタイム」と「パート・アルバイト」を含む）の割合は、南箕輪村は64.0%、長野県が51.7%となっている。また、「無職」は長野県が17.2%、南箕輪は9.8%と違いがみられるが、それらは年齢層の高さによるものと思われる。

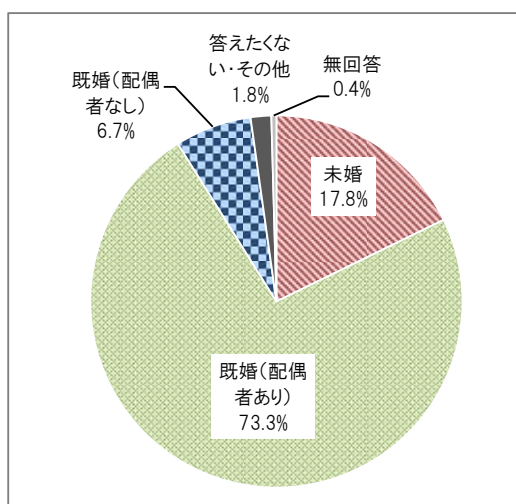


問4 結婚の状況

あなたの結婚の状況についてお答えください。

結婚状況は、「既婚（配偶者あり）」が73.3%で最も多く、次いで「未婚」が17.8%となっている。

	回答項目	回答数	構成比
1.	未婚	80	17.8%
2.	既婚（配偶者あり）	330	73.3%
3.	既婚（配偶者なし）	30	6.7%
4.	答えたくない・その他	8	1.8%
5.	無回答	2	0.4%
	計	450	100.0%

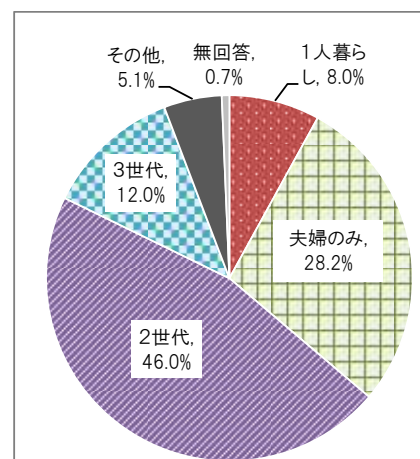


問5 家族構成

あなたの家族構成についてお答えください。

家族構成は、「2世代」が46.0%で最も多く、次に「夫婦のみ」が28.2%となっている。

	回答項目	回答数	構成比
1.	1人暮らし	36	8.0%
2.	夫婦のみ	127	28.2%
3.	2世代	207	46.0%
4.	3世代	54	12.0%
5.	その他	23	5.1%
6.	無回答	3	0.7%
	計	450	100.0%

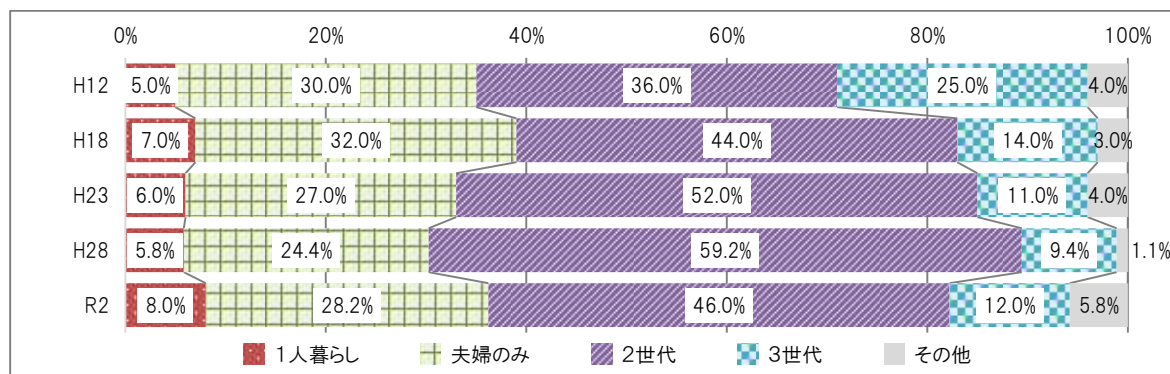


<その他の記述>

兄妹／子と二人／子供1／週末2～3人／親子／夫婦、子供／夫婦＋子ども1人／夫婦・息子／夫婦と母／父母・本人／母・姉

[過去調査との比較]

H12には「夫婦のみ」「2世代」「3世代」の割合がほぼ均等であったものが、次第に「2世代」が占める割合が増えてきており、H28年には59.2%まで高くなっている。反対に「3世代」は減少している。



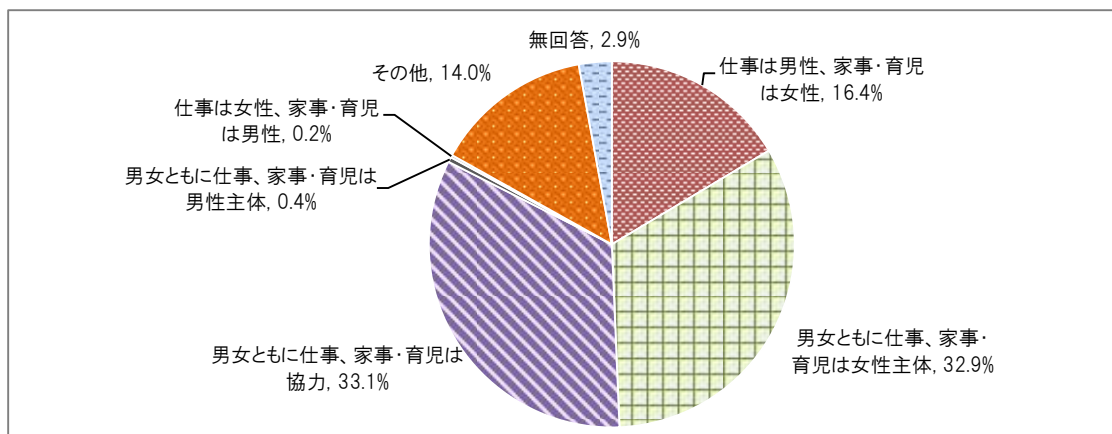
※比較のため、本グラフにおけるR2の「その他」の数値は、「その他」と「無回答」の合計

【男女共同参画に関する事項】

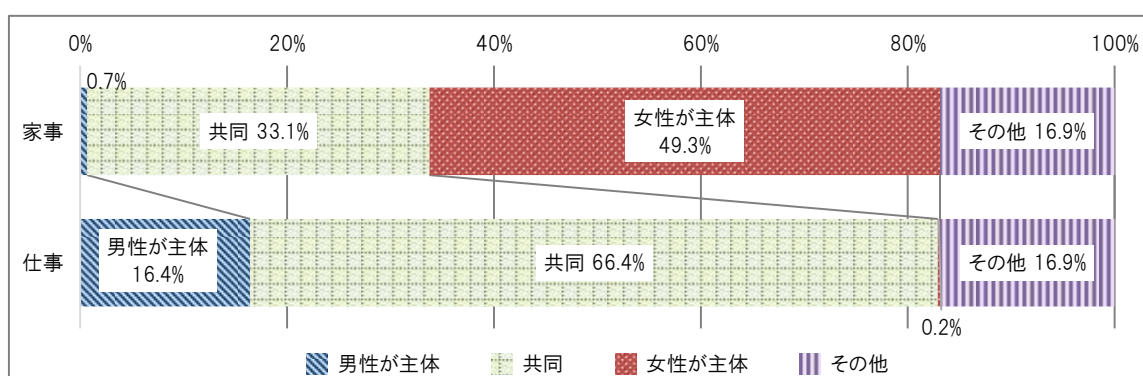
問6 家庭内における仕事と家事の役割分担

あなたのご家庭では、仕事と家事の役割分担はどのようにしていますか。

仕事と家事の役割分担は、「男女ともに仕事、家事・育児は協力」が33.1%で、「男女ともに仕事、家事・育児は女性主体」が32.9%と上位になっている。また、家事、仕事についての主体がどちらであるかを分類したところ、家事については女性が主体、仕事については共同という考えが多くを占めている。



	回答項目	回答数	構成比	(家事の主体)	(仕事の主体)
1.	仕事は男性、家事・育児は女性	74	16.4%	女性	男性
2.	男女ともに仕事、家事・育児は女性主体	148	32.9%	女性	共同
3.	男女ともに仕事、家事・育児は協力	149	33.1%	共同	共同
4.	男女ともに仕事、家事・育児は男性主体	2	0.4%	男性	共同
5.	仕事は女性、家事・育児は男性	1	0.2%	男性	女性
6.	その他	63	14.0%		
7.	無回答	13	2.9%		
	計	450	100.0%		



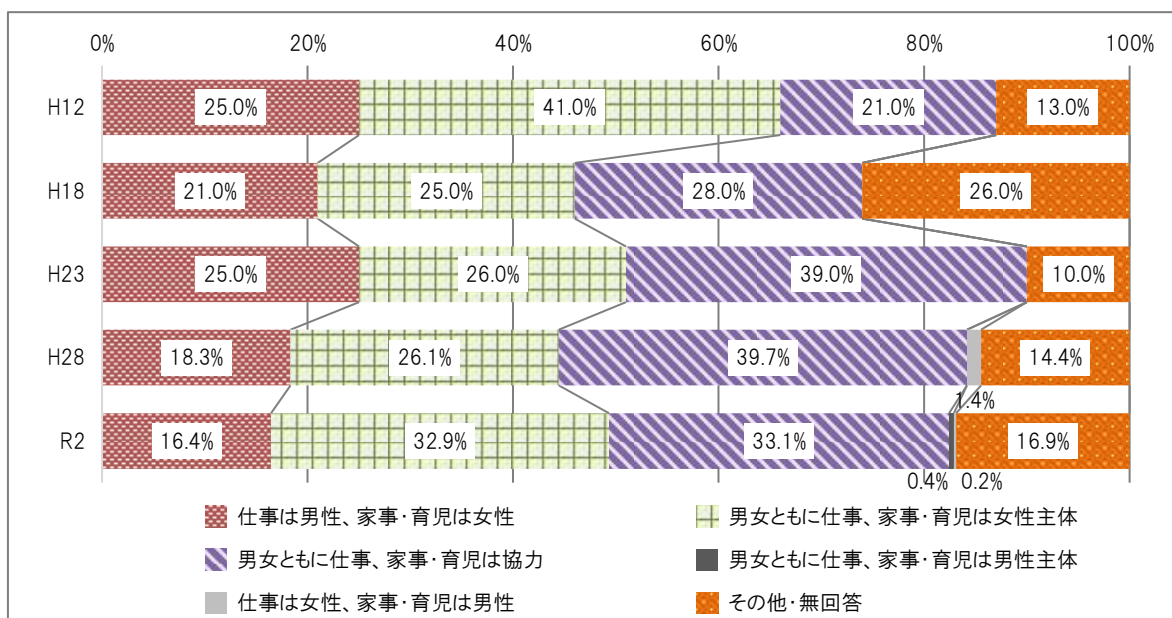
※選択肢を家事の主体、仕事の主体に区分してグラフ化したもの

<その他の記述>

1人でやっている（一人暮らし）／1人なので全て／1人なので負担はない／育児に携わったことがない。家事は分担するが主体性あり／育児はなし／一人暮らしにつき、自分で全部やっている／家事、介護／家事を負担／家事全般女性／仕事 家事 育児 女性／仕事、家事共に女性／仕事は男性、家事・介護は女性。休日はともに。／仕事は男性、家事は女性、育児は協力／子が難病のため家事・仕事は自分のみです。／子どもは成人して男女ともに仕事家事／若い頃は2、今は3に近い／女性だけの家族なので／男・・外作業一般。女・・家事／男女ともに仕事、家事／男女ともに仕事家事／男性のみの家族／男性は仕事も家事もしない／男性は定年しているため、仕事も家事も女性主体／独身なので、役割などありません

「仕事は男性、家事・育児は女性」という回答は、H23 に一旦増加したものの、概ね減少傾向にある。

また、H12 は「男女ともに仕事、家事・育児は女性主体」が最も多い回答であったものが、H18 以降より「男女ともに仕事、家事・育児は協力」が最も多くなっている。



	回答項目	H12	H18	H23	H28	R2
1.	仕事は男性、家事・育児は女性	25.0%	21.0%	25.0%	18.3%	16.4%
2.	男女ともに仕事、家事・育児は女性主体	41.0%	25.0%	26.0%	26.1%	32.9%
3.	男女ともに仕事、家事・育児は協力	21.0%	28.0%	39.0%	39.7%	33.1%
4.	男女ともに仕事、家事・育児は男性主体	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
5.	仕事は女性、家事・育児は男性	-	-	-	1.4%	0.2%
6.	その他・無回答	13.0%	26.0%	10.0%	14.4%	16.9%

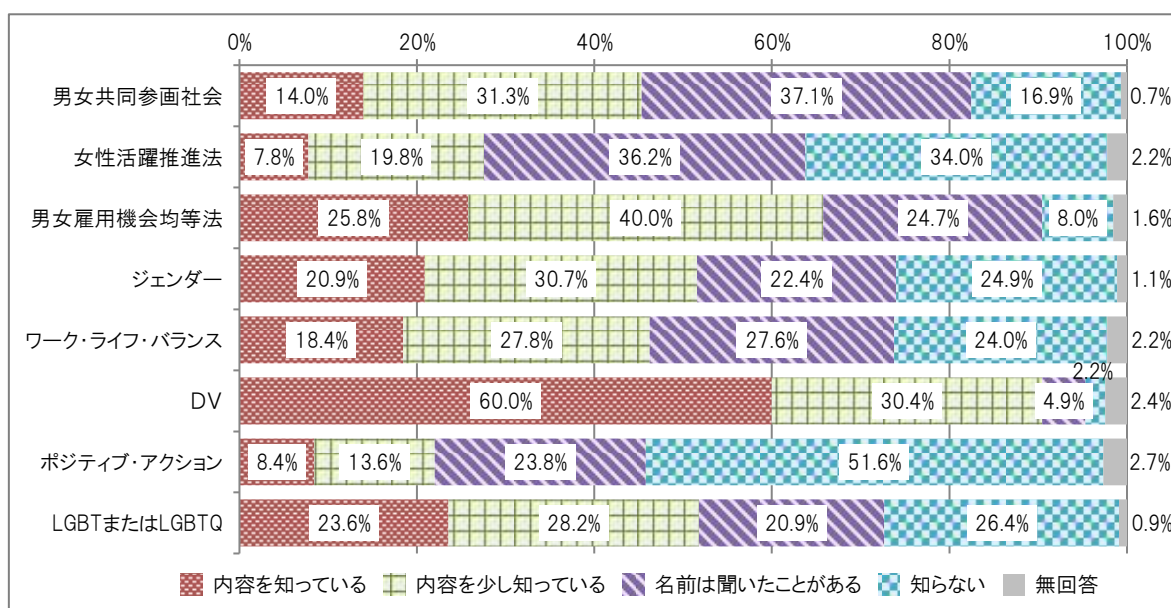
※「男女ともに仕事、家事・育児は男性主体」の選択肢を H28 より追加

※比較のため、R2 は「その他」と「無回答」を合算

問7 男女共同参画に関連する言葉の認知度

あなたは、次の言葉やことがらについてご存じですか？あるいは聞いたことがありますか。

「DV（配偶者やパートナーからの暴力）」は、「内容を知っている」の割合が60.0%であり、他の言葉やことがらの中で最も多い。「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」は、「知らない」の割合が51.6%で他の言葉やことがらの中で最も多い。



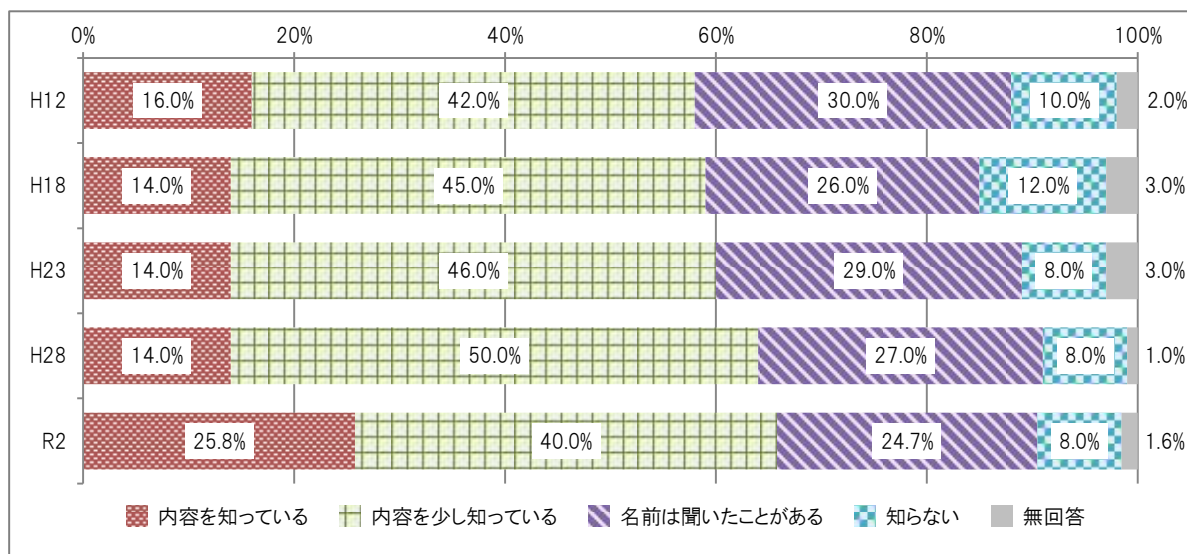
回答項目		知っている程度		内容を知っている	内容を少し知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	計
A	男女共同参画社会	回答数		63	141	167	76	3	450
		構成比		14.0%	31.3%	37.1%	16.9%	0.7%	100.0%
B	女性活躍推進法	回答数		35	89	163	153	10	450
		構成比		7.8%	19.8%	36.2%	34.0%	2.2%	100.0%
C	男女雇用機会均等法	回答数		116	180	111	36	7	450
		構成比		25.8%	40.0%	24.7%	8.0%	1.6%	100.0%
D	ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	回答数		94	138	101	112	5	450
		構成比		20.9%	30.7%	22.4%	24.9%	1.1%	100.0%
E	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	回答数		83	125	124	108	10	450
		構成比		18.4%	27.8%	27.6%	24.0%	2.2%	100.0%
F	DV（配偶者やパートナーからの暴力）	回答数		270	137	22	10	11	450
		構成比		60.0%	30.4%	4.9%	2.2%	2.4%	100.0%
G	ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	回答数		38	61	107	232	12	450
		構成比		8.4%	13.6%	23.8%	51.6%	2.7%	100.0%
H	LGBTまたはLGBTQ（性的少数者の総称のひとつ）	回答数		106	127	94	119	4	450
		構成比		23.6%	28.2%	20.9%	26.4%	0.9%	100.0%

[過去調査との比較] (男女雇用機会均等法の認知度)

「内容を知っている」の回答は、15%前後の推移であったものが、R2においては25.8%へ大幅に上昇している。

また、「内容を知っている」「内容を少し知っている」の合計をみると増加傾向にあり、反対に「名前は聞いたことがある」は、やや減少傾向にあることがわかる。

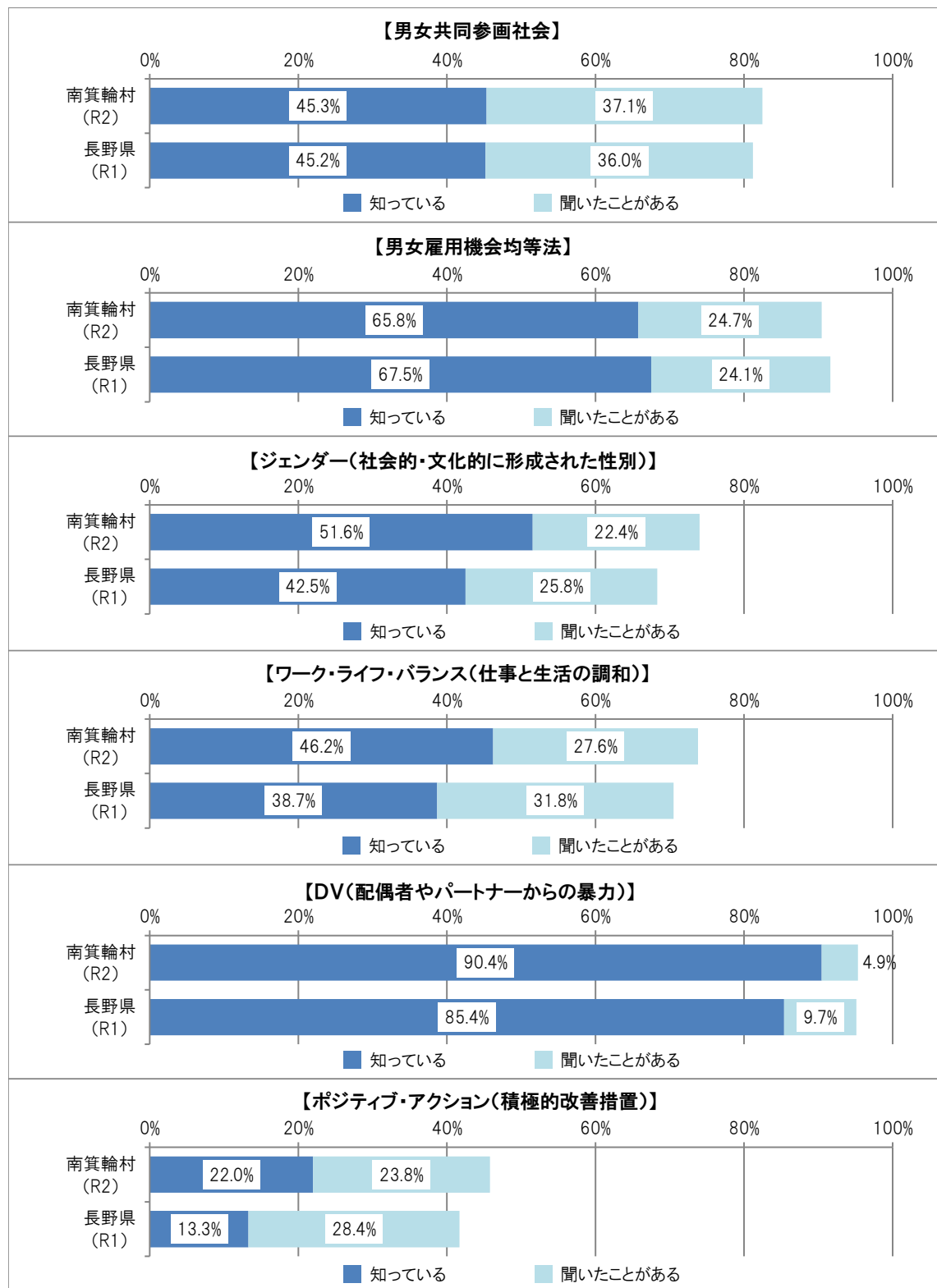
「知らない」はほぼ横ばいに推移している。



※比較のため H28 までの「知っているが内容は知らない」を「名前は聞いたことがある」の回答に読み替えた

[長野県調査との比較]

「男女雇用機会均等法」は長野県の方がやや認知度が高いものの、ほとんどの言葉について南箕輪村の方が高い結果となった。特に「ジェンダー」「ワーク・ライフ・バランス」「ポジティブ・アクション」については、「知っている」との回答が高くなっている。

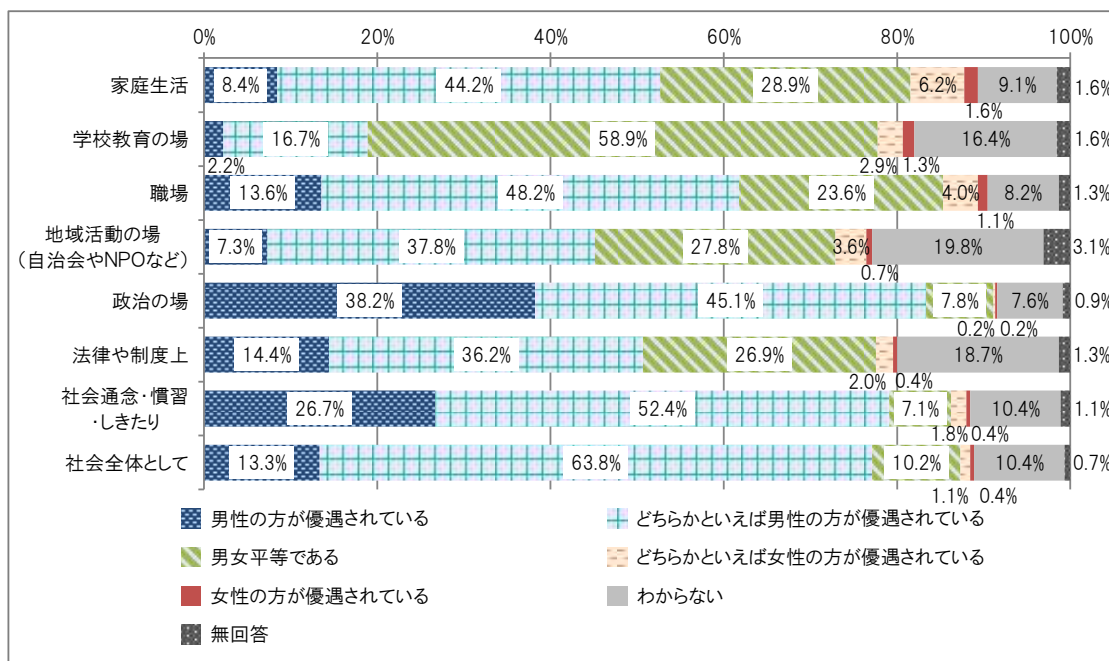


※県の選択肢に合わせ、村の「知っている」は「内容を知っている」「内容を少し知っている」の合計とした
 ※「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答した人の割合

問8 様々な立場や地位における平等感

あなたは、次にあげる分野で男女の地位や立場は平等になっていると思いますか。

「学校教育の場」だけが「男女平等である」が最も高いものの、58.9%にとどまっている。それ以外の項目は全て「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多いものの、次に「男女平等である」が多いのは「家庭生活」「職場」「地域活動の場」「法律や制度上」であり、「男性の方が優遇されている」が多いのは「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体として」であった。



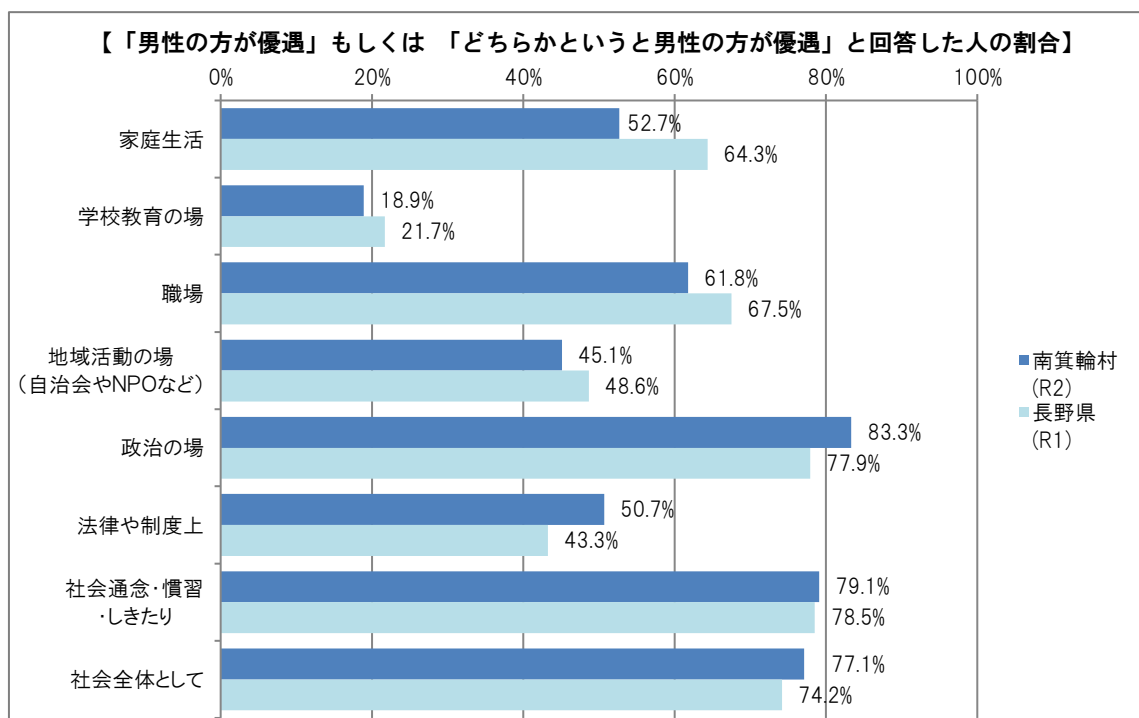
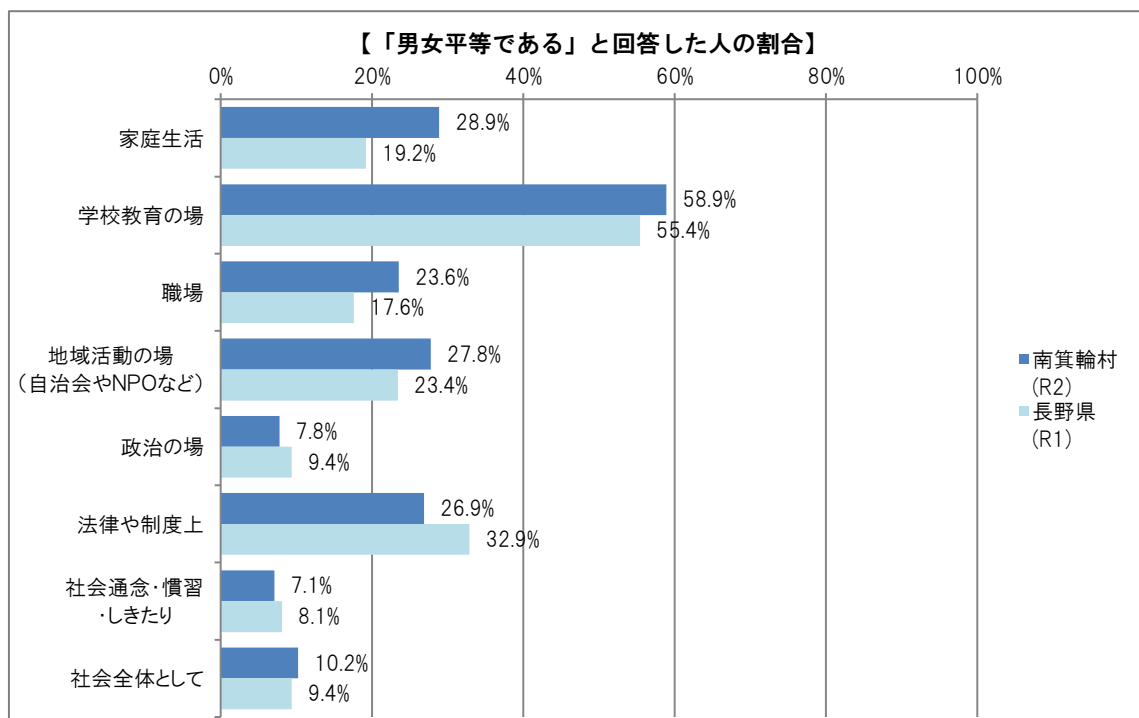
回答項目 \ 考え			男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女平等である	女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	計
A	家庭生活	回答数	38	199	130	28	7	41	7	450	
		構成比	8.4%	44.2%	28.9%	6.2%	1.6%	9.1%	1.6%	100.0%	
B	学校教育の場	回答数	10	75	265	13	6	74	7	450	
		構成比	2.2%	16.7%	58.9%	2.9%	1.3%	16.4%	1.6%	100.0%	
C	職場	回答数	61	217	106	18	5	37	6	450	
		構成比	13.6%	48.2%	23.6%	4.0%	1.1%	8.2%	1.3%	100.0%	
D	地域活動の場(自治会やNPOなど)	回答数	33	170	125	16	3	89	14	450	
		構成比	7.3%	37.8%	27.8%	3.6%	0.7%	19.8%	3.1%	100.0%	
E	政治の場	回答数	172	203	35	1	1	34	4	450	
		構成比	38.2%	45.1%	7.8%	0.2%	0.2%	7.6%	0.9%	100.0%	
F	法律や制度上	回答数	65	163	121	9	2	84	6	450	
		構成比	14.4%	36.2%	26.9%	2.0%	0.4%	18.7%	1.3%	100.0%	
G	社会通念・慣習・しきたり	回答数	120	236	32	8	2	47	5	450	
		構成比	26.7%	52.4%	7.1%	1.8%	0.4%	10.4%	1.1%	100.0%	
H	社会全体として	回答数	60	287	46	5	2	47	3	450	
		構成比	13.3%	63.8%	10.2%	1.1%	0.4%	10.4%	0.7%	100.0%	

凡例 1位の項目
斜体 2位の項目

[長野県調査との比較]

「男女平等である」と回答した人が長野県より多いのは、「家庭生活」「学校教育の場」「職場」「地域活動の場（自治会やNPOなど）」であり、「家庭生活」は南箕輪村の方が9.7ポイント高くなっている。

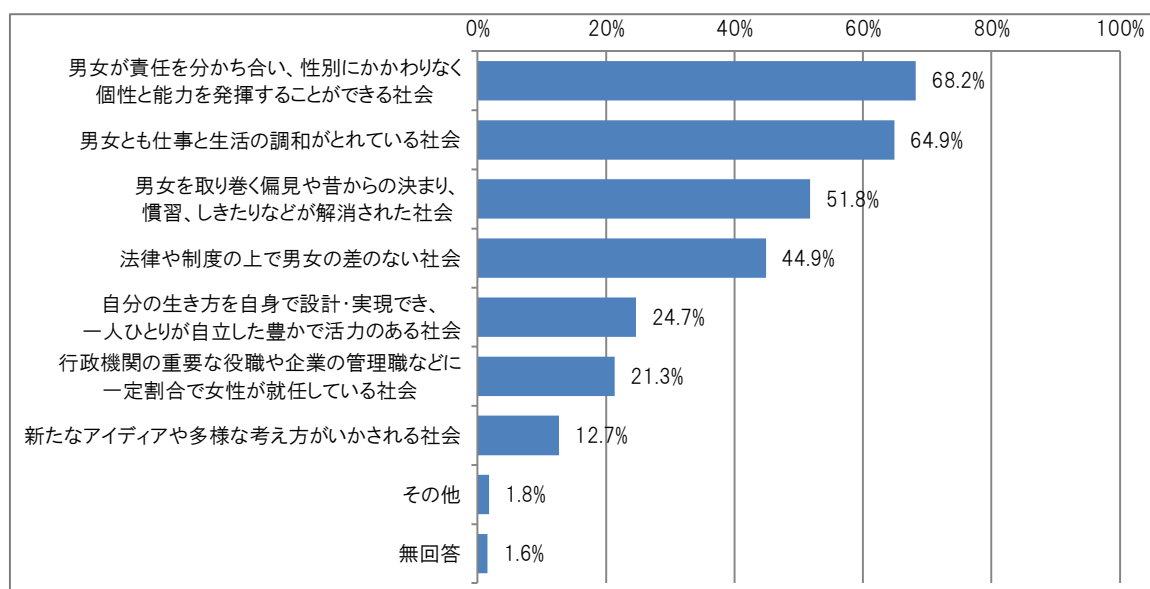
また、「男性の方が優遇されている」もしくは「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が長野県より多いのは、「政治の場」「法律や制度上」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体として」となっている。



問9 男女共同参画社会のイメージ

あなたの考える「男女共同参画社会」は、どのような社会ですか。次の中からあなたの考えに近いものを、3つまで選んでください。（複数回答）

「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」が68.2%で最も多く、次いで「男女とも仕事と生活の調和がとれている社会」が64.9%となっている。



回答項目	回答数	構成比
男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会	307	68.2%
男女とも仕事と生活の調和がとれている社会	292	64.9%
男女を取り巻く偏見や昔からの決まり、慣習、しきたりなどが解消された社会	233	51.8%
法律や制度の上で男女の差のない社会	202	44.9%
自分の生き方を自身で設計・実現でき、一人ひとりが自立した豊かで活力のある社会	111	24.7%
行政機関の重要な役職や企業の管理職などに一定割合で女性が就任している社会	96	21.3%
新たなアイデアや多様な考え方がいかされる社会	57	12.7%
その他	8	1.8%
無回答	7	1.6%
計	450	

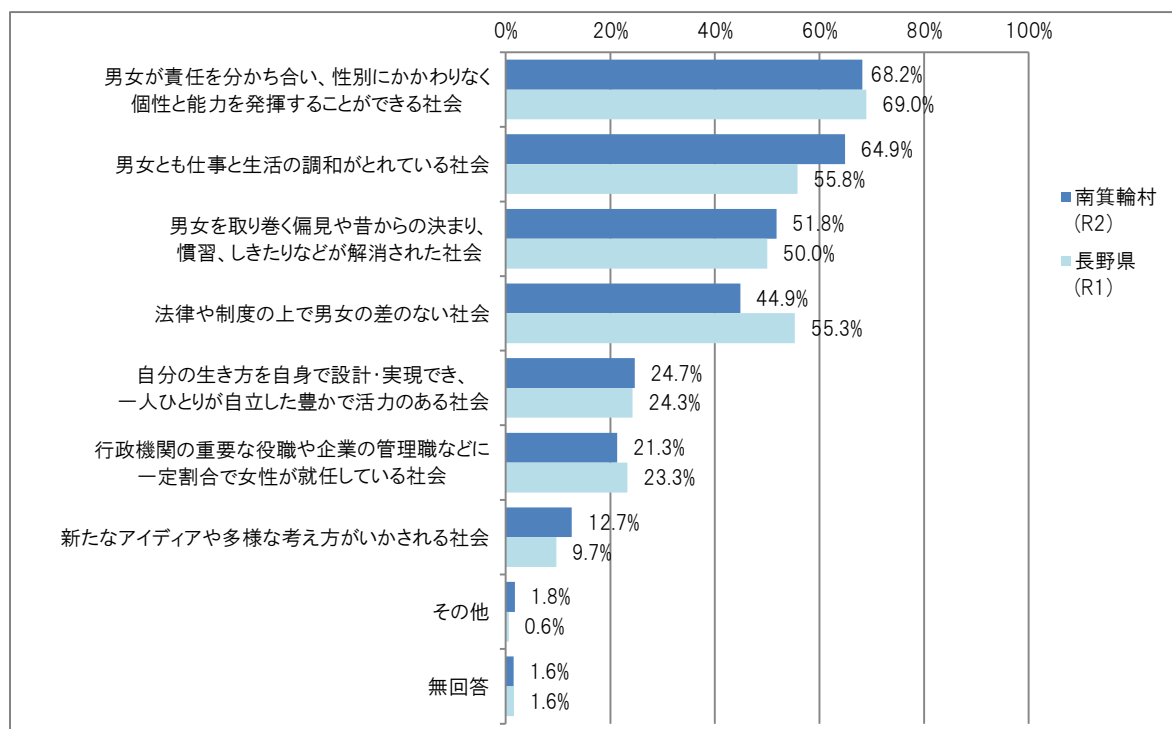
※回答数の高い順に選択肢を並び替え

<その他の記述>

わからない／女性にしか子供を産むことができない。その事以外は男女平等である社会／男だから女だからという考え方がなくなり、男と女の差を踏まえた平等の社会／男と女考え方が違うので、わかちあえるかわからないが、責めない追い込まない社会作り／男にしかできない仕事、女にしかできない仕事はある／男女それぞれに見合った法律や制度が満たされた社会／男女共同なんて考えない

[長野県調査との比較]

長野県は「法律や制度の上で男女の差のない社会」が55.3%と高くなっており、南箕輪村は44.9%にとどまっている。それ以外の項目は、長野県とほぼ同様の傾向にある。

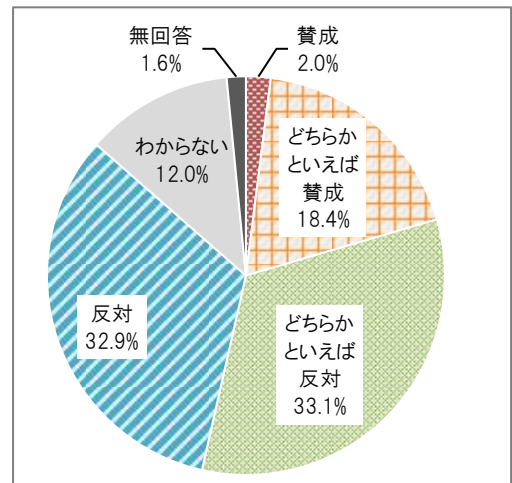


問 10 性別によって役割を固定する考え方について

あなたは「男は仕事、女は家庭」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。

「男は仕事、女は家庭」という性別によって役割を固定する考え方については、「どちらかといえば反対」、「反対」の回答が多く、それらの合計は66.0%を占めている。

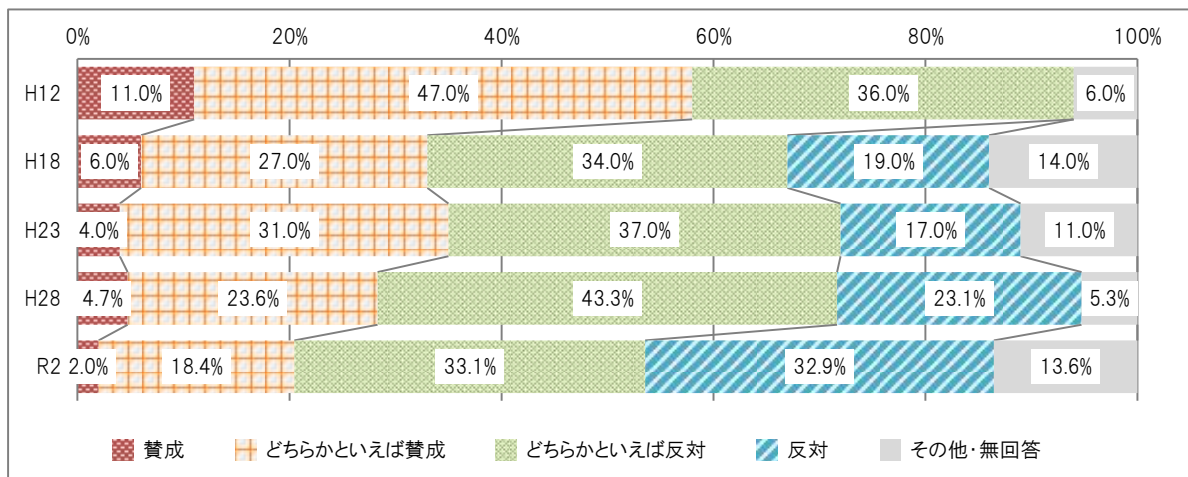
回答項目	回答数	構成比
賛成	9	2.0%
どちらかといえば賛成	83	18.4%
どちらかといえば反対	149	33.1%
反対	148	32.9%
わからない	54	12.0%
無回答	7	1.6%
計	450	100.0%



[過去調査との比較]

「賛成」及び「どちらかといえば賛成」は、近年になるにつれ減少傾向にある。

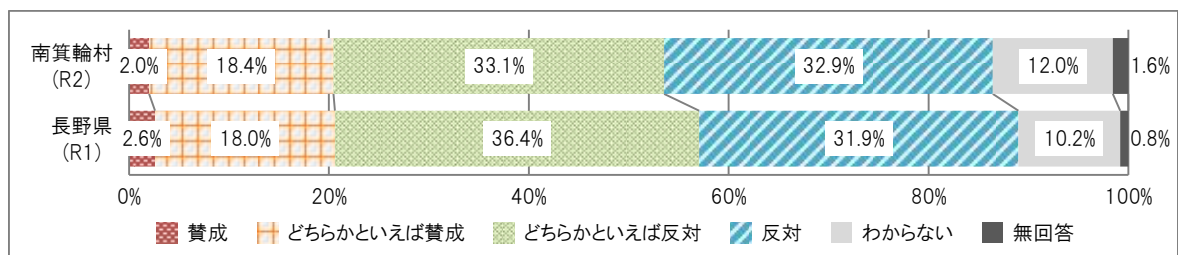
また、「反対」「どちらかといえば反対」は増加傾向にあり、R2 は「反対」は32.9%まで増加している。



※比較のため R2 の「わからない」「無回答」は「その他・無回答」に合算

[長野県調査との比較]

長野県との比較では、ほとんど差は見られない。

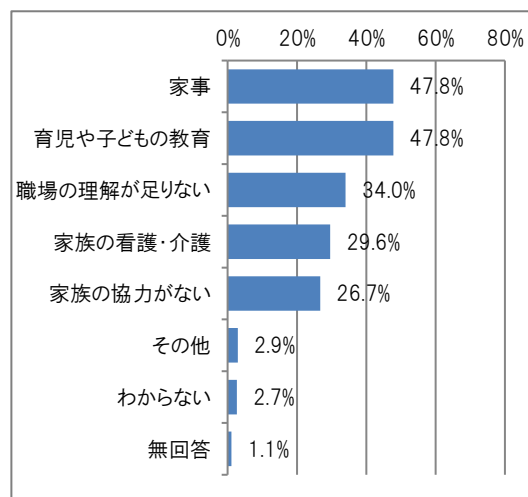


問 11 女性が家庭と仕事の両立に負担となっていること

あなたは女性が家庭と仕事を両立させて働き続ける上で、負担となっていることは何だと思いますか。次の中から2つまで選んでください。（複数回答）

「家事」と「育児や子どもの教育」が同率 47.8%で最も多くなっており、次いで「職場の理解が足りない」となっている。

回答項目	回答数	構成比
家事	215	47.8%
育児や子どもの教育	215	47.8%
職場の理解が足りない	153	34.0%
家族の看護・介護	133	29.6%
家族の協力が無い	120	26.7%
その他	13	2.9%
わからない	12	2.7%
無回答	5	1.1%
計	450	



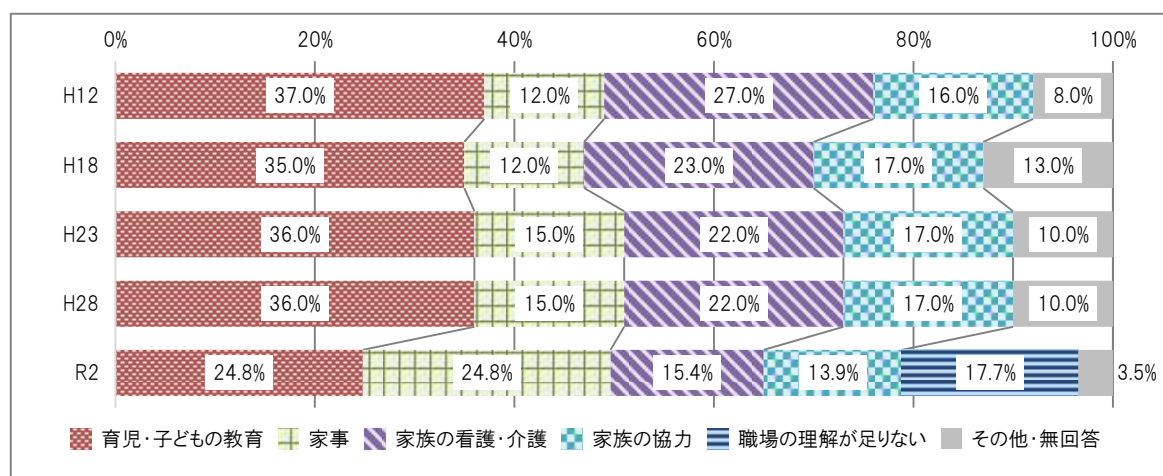
※回答数の高い順に選択肢を並び替えたもの

<その他の記述>

職場の理解が足りないにプラスして制度が足りない／この基本法に限ったことではないが、男女問わずですが大変経済的な余裕がある方々、家庭あり仕事優先させてきた方々、あるいは男中心で制度を作ったり、決めたりするので非正規雇用や女性や子供たちが大変困ることになる／パート等、非正規雇用になったときの賃金や処遇の悪さ／子供を産むこと／私は負担になっていなかった／社会や家族の意識／地域の考えの古さ／日本の慣習、通念／妊娠から出産までの期間、仕事ができないこと

[過去調査との比較]

H28 までは「育児」「子どもの教育」が 30%以上を占めていたものが、R2 には減少しており、その反面、「家事」が増加している。また、「家族の看護・介護」は H12 には 27%であったが、R2 は 15%と減少傾向にある。なお、R2 は選択肢に「職場の理解が足りない」を加えたことなどにより、過去調査結果と隔たりが生じている。



※比較のため、R2 の数値は過去調査の集計方法に合わせ、回答合計を母数とした構成比にしたもの

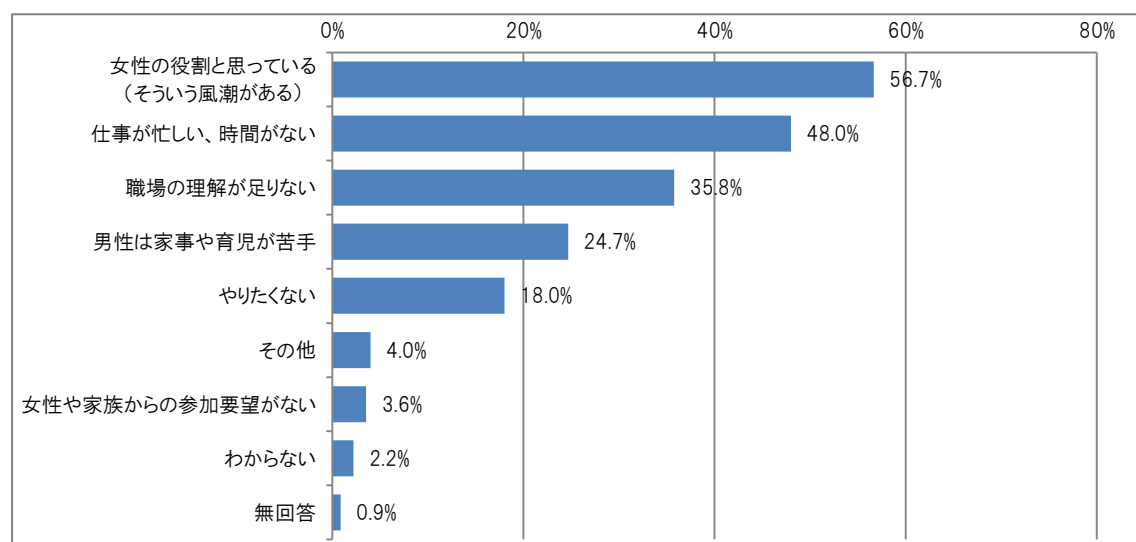
※R2 は「育児」「子どもの教育」の選択肢をひとつにした

※「その他」「わからない」「無回答」を「その他・無回答」に合算

問 12 男性が家事や子育てに積極的に参加できない理由

あなたは多くの男性が家事や子育て・介護などに積極的に参加しない(できない)現状について、理由は何だと思われますか。次の中から2つまで選んでください。(複数回答)

「女性の役割と思っている(そういう風潮がある)」が56.7%と半数以上を占めており、次いで「仕事が忙しい、時間がない」「職場の理解が足りない」となっている。また、「男性は家事や育児が苦手」「やりたくない」が順に24.7%、18.0%となっている。



回答項目	回答数	構成比
女性の役割と思っている(そういう風潮がある)	255	56.7%
仕事が忙しい、時間がない	216	48.0%
職場の理解が足りない	161	35.8%
男性は家事や育児が苦手	111	24.7%
やりたくない	81	18.0%
その他	18	4.0%
女性や家族からの参加要望がない	16	3.6%
わからない	10	2.2%
無回答	4	0.9%
計	450	

※回答数の高い順に選択肢を並び替えたもの

<その他の記述>

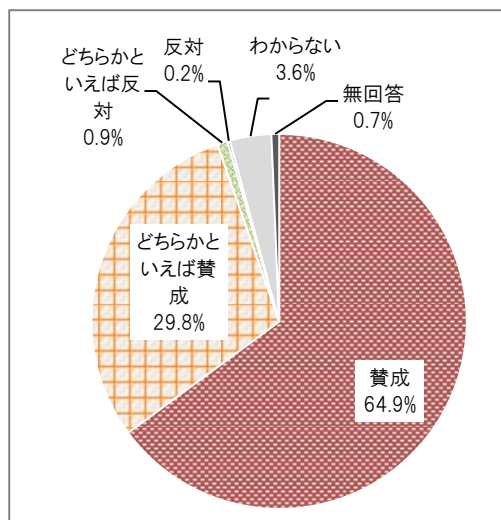
職場の理解+制度が足りない／60代すぎの方は自分がすることではないと思っているかな？／やり方ややるべきことが分からない／給与面で男性の方が高いのでどうしても女性の方が家事、育児をやらなければならない／子どもの頃から家事を習う／社会の雰囲気がまだそのレベルにない／女性の仕事時間が増えている／男性によっては参加の仕方がわからないのでは？と思う／男性は何を子育てかがわかっていない。母親の育児全部をわかって欲しい。／地域の考えの古さ／働かないと収入がなくなる／優先順位、社会環境整備の不備、役割分担子供や介護の都合にあわせ有給休暇がとれ、復帰後も支障がなければ参加できるでしょう。／幼少期からの家事に関わる経験不足

問 13 「男も家事、育児、介護に参加する」の考え方について

あなたは「男も家事、育児、介護に参加する」という考え方について、どう思いますか。

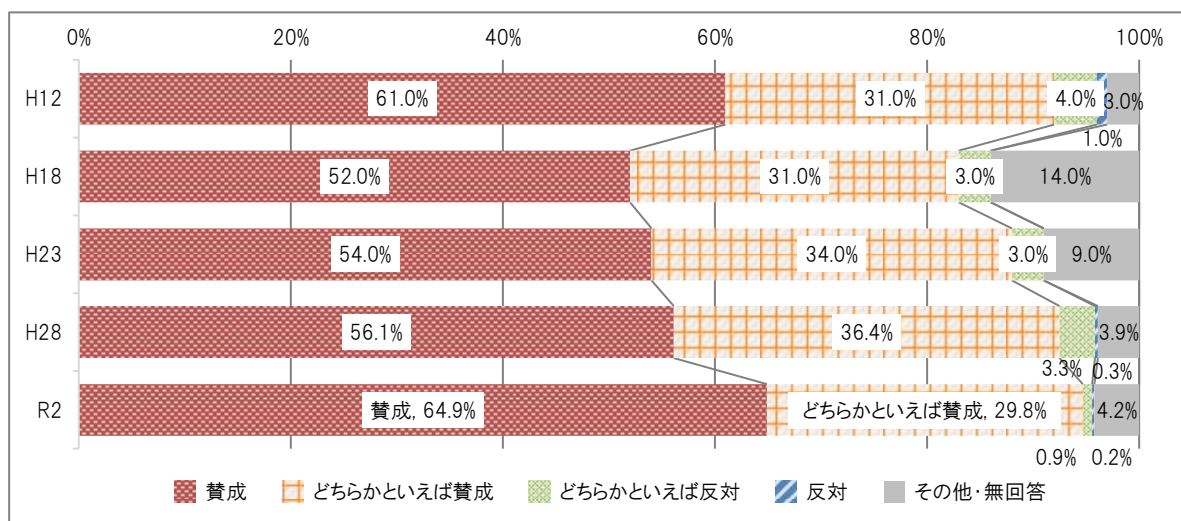
「男も家事、育児、介護に参加する」という考え方については、「賛成」が 64.9% となっている。「どちらかといえば賛成」は 29.8% を占めており、両方を合計すると 94.7% になっている。

	回答項目	回答数	構成比
1.	賛成	292	64.9%
2.	どちらかといえば賛成	134	29.8%
3.	どちらかといえば反対	4	0.9%
4.	反対	1	0.2%
5.	わからない	16	3.6%
6.	無回答	3	0.7%
	計	450	100.0%



[過去調査との比較]

H18 以降は「賛成」「どちらかといえば賛成」の回答が両者とも増加傾向にある。「どちらかといえば反対」は 3~4% あったものが、R2 はわずか 0.9% まで減少している。



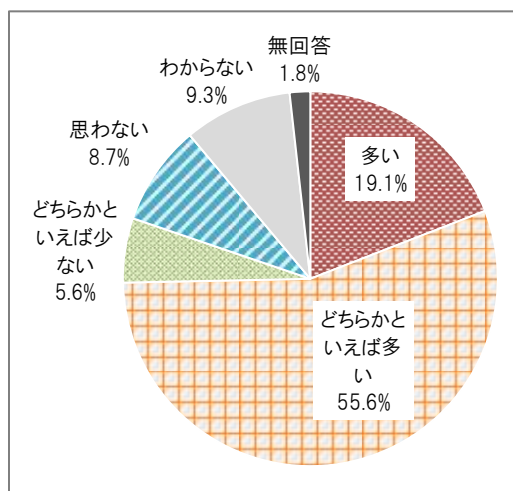
※比較のため R2 の「わからない」と「無回答」を「その他・無回答」に合算
 ※「わからない」の選択肢は R2 より追加

問 14 重要なポストや決定権などへの女性登用について

女性には能力があっても重要なポストにつけなかったり、決定権を与えられなかったりすることが多いと思いますか。

女性には能力があっても重要なポストにつけなかったり、決定権を与えられなかったりすることについては、「どちらかといえば多い」が55.6%と最も多くなっている。

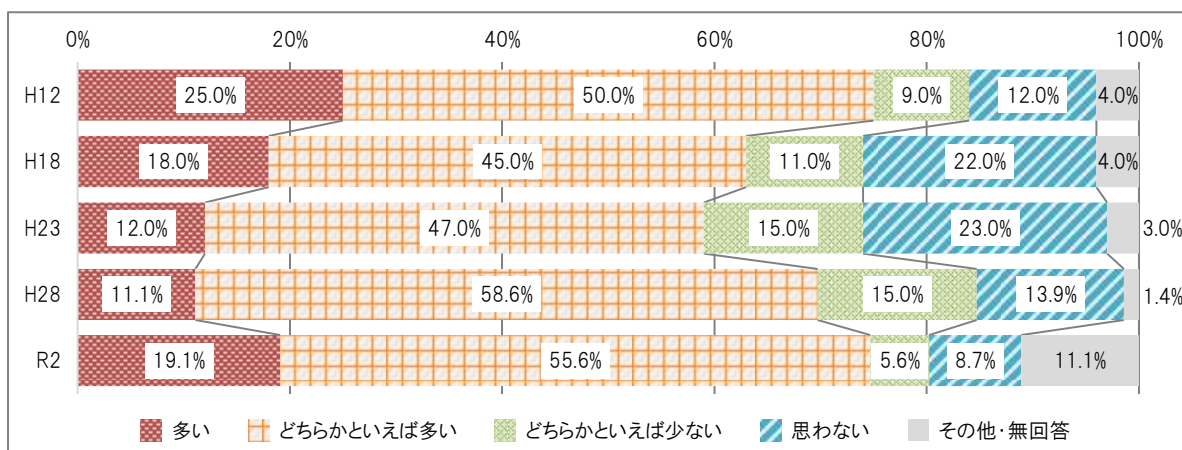
	回答項目	回答数	構成比
1.	多い	86	19.1%
2.	どちらかといえば多い	250	55.6%
3.	どちらかといえば少ない	25	5.6%
4.	思わない	39	8.7%
5.	わからない	42	9.3%
6.	無回答	8	1.8%
	計	450	100.0%



[過去調査との比較]

「多い」の回答は H28 までは減少傾向にあったが、R2 に一転し増加している。それに伴い、「どちらかといえば多い」が増加傾向にあったものが、R2 に減少へと転じている。

反対に、「思わない」の回答は H23 まで増加傾向にあったが、H28 より減少に転じている。



※比較のため R2 の「わからない」と「無回答」を「その他・無回答」に合算

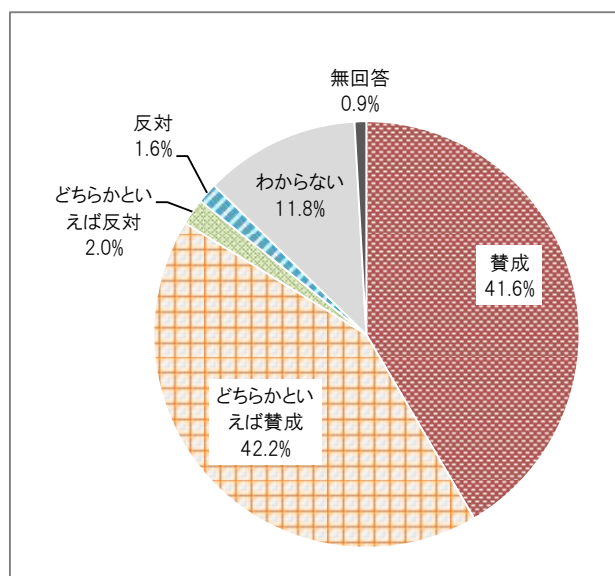
※「わからない」の選択肢は R2 より追加

問 15 国や自治体における女性登用について

あなたは「国や自治体は各種の審議会や委員会にもっと多くの女性を登用する必要がある」という考え方について、どう思いますか。

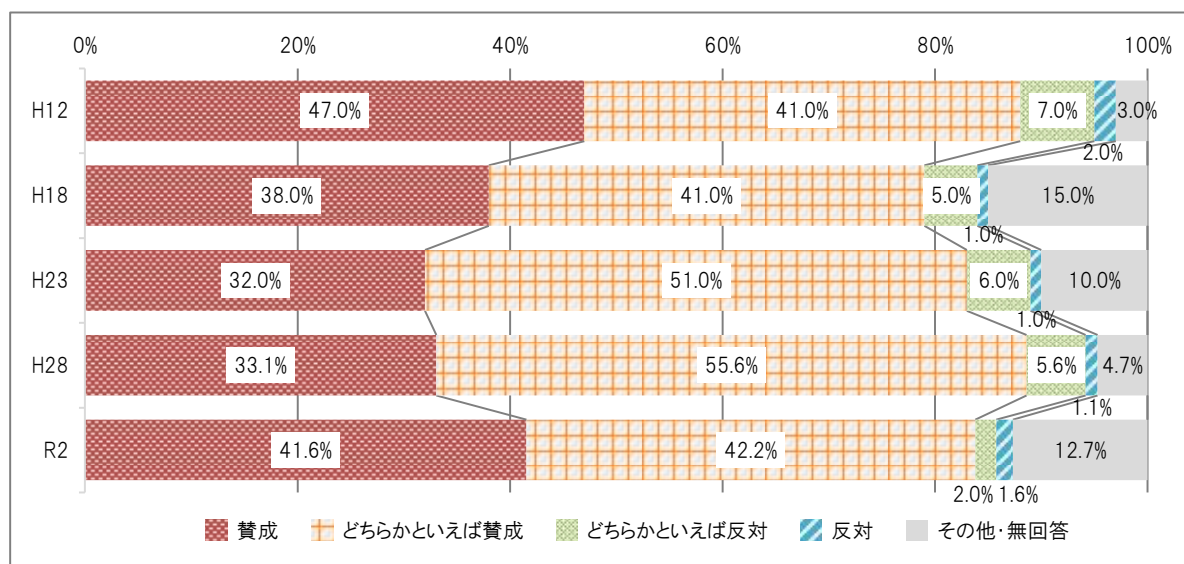
「国や自治体は各種の審議会や委員会にもっと多くの女性を登用する必要がある」という考え方については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」がほぼ同数となっており、順に 41.6%、42.2%であり、両方を合計すると 83.8%になる。

	回答項目	回答数	構成比
1.	賛成	187	41.6%
2.	どちらかといえば賛成	190	42.2%
3.	どちらかといえば反対	9	2.0%
4.	反対	7	1.6%
5.	わからない	53	11.8%
6.	無回答	4	0.9%
	計	450	100.0%



[過去調査との比較]

「賛成」の回答は減少傾向にあったが、R2 に一転し増加となっている。その反面に、「どちらかといえば賛成」の回答は増加傾向にあったが、R2 に減少に転じている。「どちらかといえば反対」は R2 に減少している。



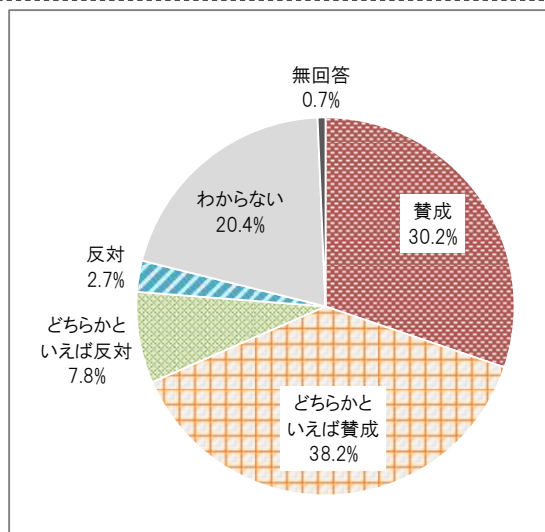
※比較のため R2 の「わからない」と「無回答」を「その他・無回答」に合算
 ※「わからない」の選択肢は R2 より追加

問 16 区の役員やPTA会長などへの女性進出について

あなたは、「区の役員やPTAなどの会長にもっと女性が進出する必要がある」という考え方について、どう思いますか。

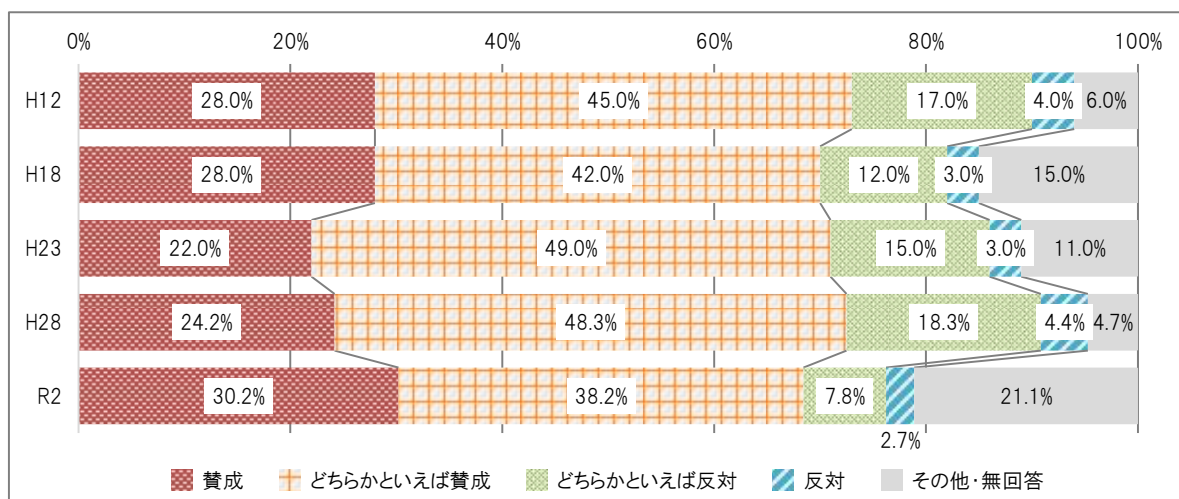
「どちらかといえば賛成」が 38.2%と最も多く、次いで「賛成」が 30.2%であり、両方を合計すると 68.4%となっている。

	回答項目	回答数	構成比
1.	賛成	136	30.2%
2.	どちらかといえば賛成	172	38.2%
3.	どちらかといえば反対	35	7.8%
4.	反対	12	2.7%
5.	わからない	92	20.4%
6.	無回答	3	0.7%
	計	450	100.0%



[過去調査との比較]

「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は、どの年も 70%程度となっている。「賛成」H28 までは 20%台であったものが、R2 は 30%を超えている。また、「どちらかといえば反対」は 10~20%程度を占めていたが、R2 は 7.8%まで下落している。



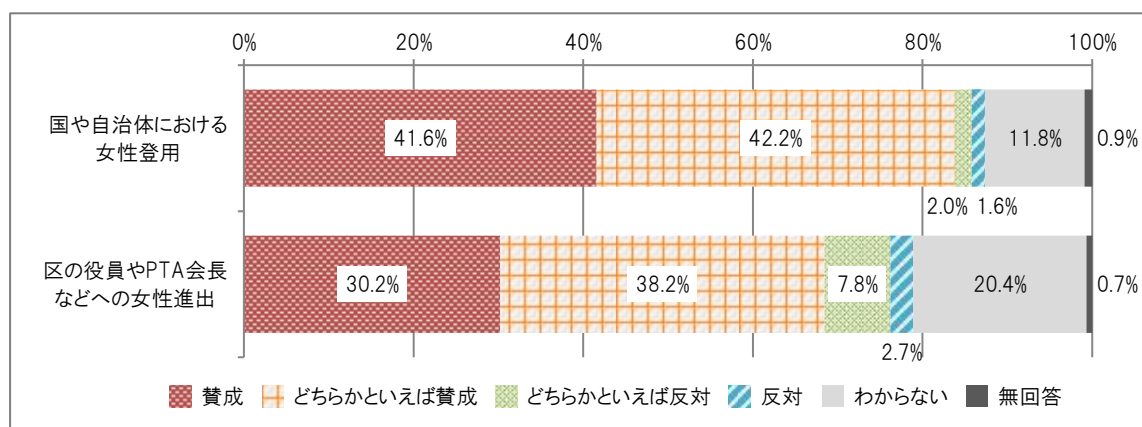
※比較のためR2の「わからない」と「無回答」を「その他・無回答」に合算。

※「わからない」の選択肢はR2より追加。

[問 15 との比較]

「国や自治体における女性登用」と「区の役員や PTA 会長などへの女性進出」を比較すると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は、前者で 83.8%、後者で 68.4%と、「国や自治体における女性登用」の方が多くなっている。

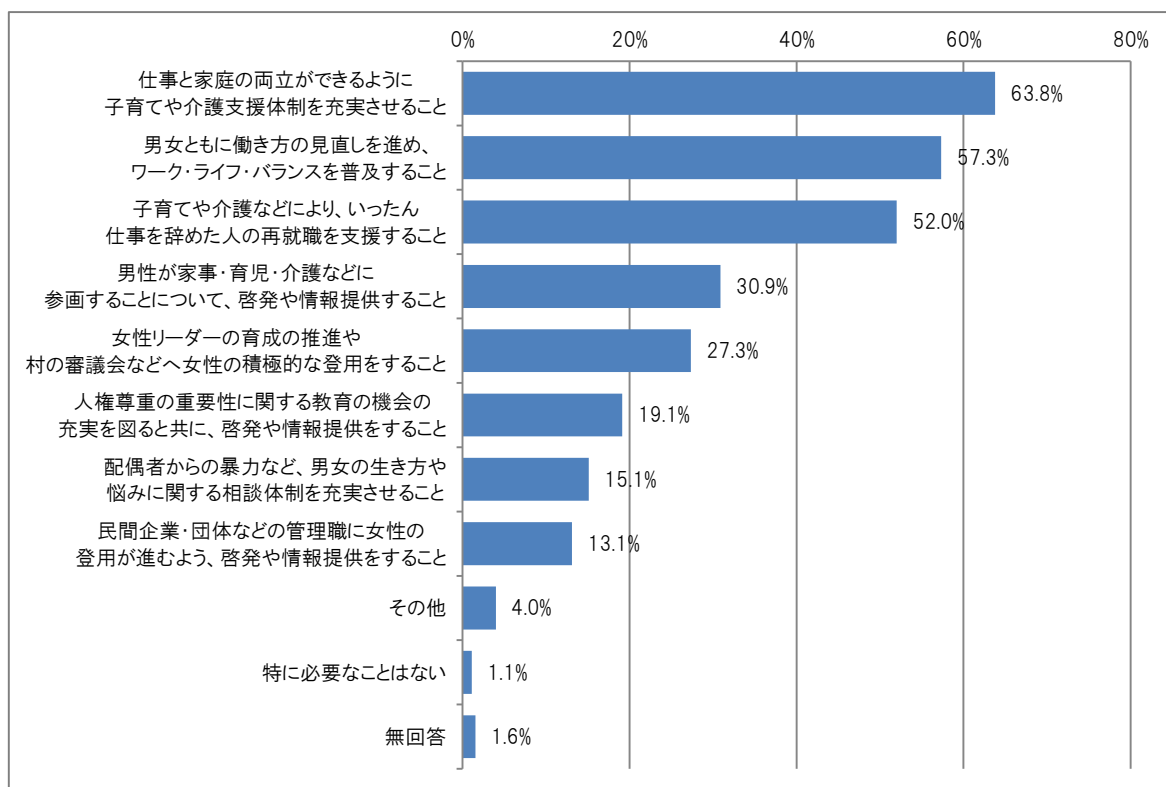
一方、「どちらかといえば反対」と「反対」の合計は、「国や自治体における女性登用」で 3.6%、「区の役員や PTA 会長などへの女性進出」で 10.5%と、「区の役員や PTA 会長などへの女性進出」の方が反対の回答が多くなっている。



問 17 男女共同参画社会実現のための村の施策について

「男女共同参画社会」を実現するために、村はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から特に重要と思うことを3つまで選んでください。（複数回答）

「仕事と家庭の両立ができるように子育てや介護支援体制を充実させること」が63.8%で最も多く、次いで「男女ともに働き方の見直しを進め、ワーク・ライフ・バランスを普及すること」が57.3%、「子育てや介護などにより、いったん仕事を辞めた人の再就職を支援すること」が52.0%となっている。



回答項目	回答数	構成比
仕事と家庭の両立ができるように子育てや介護支援体制を充実させること	287	63.8%
男女ともに働き方の見直しを進め、ワーク・ライフ・バランスを普及すること	258	57.3%
子育てや介護などにより、いったん仕事を辞めた人の再就職を支援すること	234	52.0%
男性が家事・育児・介護などに参画することについて、啓発や情報提供すること	139	30.9%
女性リーダーの育成の推進や村の審議会などへ女性の積極的な登用をすること	123	27.3%
人権尊重の重要性に関する教育の機会の充実を図ると共に、啓発や情報提供をすること	86	19.1%
配偶者からの暴力など、男女の生き方や悩みに関する相談体制を充実させること	68	15.1%
民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう、啓発や情報提供をすること	59	13.1%
その他	18	4.0%
特に必要なことはない	5	1.1%
無回答	7	1.6%
計	450	

※回答数の高い順に選択肢を並び替えたもの

<その他の記述>

- ◆ 社会人が一般教養を勉強しやすいネット環境等を充実させて、社会人の教養 UP を計って欲しい。コロナの監視社会的田舎意識を変えたい
- ◆ ⑥や④などについて“啓発や情報提供する”ではなく、具体的に行動可能な仕組み、行動することで本人や家族、会社（職場）にメリットがあること、そんな仕組みを作ることが大事
- ◆ こんな事を今聞いているようでは遅すぎる。まず、村の中にしっかりと根付いている昔からの意識が変わらない限り、女性の登用ばかりしても、形ばかりの物と思う！形ばかり整えても、実がなければ、意味がない。豊かな生活が整えば、男女という意識はおのずと消えるはず。もっと心豊かに暮らせる世の中をつくろう！
- ◆ 可能であれば中高生にも分かりやすい「男女共同参画社会」の資料・情報提供してみてもどうかと思う
- ◆ 今の子どもたちに、男女とも、働き一緒に家事育児を教育する。学ぶこと。
- ◆ 最低賃金の底上げに積極的に動いて欲しい
- ◆ 産休・育休・育児・子育て（小学校まで）の補助金助成金を充実させ、日常の幸福度を少しでも上げ続ける心のゆとりを作ることで、若い世代の女性が仕事と生活でさらに充実した時間を過ごせるようになっていく。
- ◆ 子育てや介護で休職する期間があっても、復職後のキャリアに差をつけない事を望みます。
- ◆ 辞めざるを得ない忖度の是正
- ◆ 社会のシステムがいまだ、女性は仕事をやめるもの（結婚や出産により）と思っている事を変える
- ◆ 女性リーダーを登用しなければ！とむやみに数合わせをして欲しくない。“女性リーダー”という言葉だけが先走らないよう、男女ともに真のリーダーシップを発揮できる人材を育成したい。そこから既に男女の枠を取り払いたい。独メルケル首相のようなリーダー
- ◆ 少子化対策をすべきである
- ◆ 昔から村に居る人達の意見を聞かないとうるさい（高齢者）
- ◆ 相談窓口や支援事業を行う
- ◆ 男女よりももう少し広い視点視野で考えることから始めてみては。（多文化共生など）
- ◆ 地域の考えの古い考え方や、風潮にはうんざりする。時に高齢者の農業者が古い。
- ◆ 両親揃って子育てする為、育児中は男性も会社の負担を半分に以下にする。

調査結果（クロス集計）

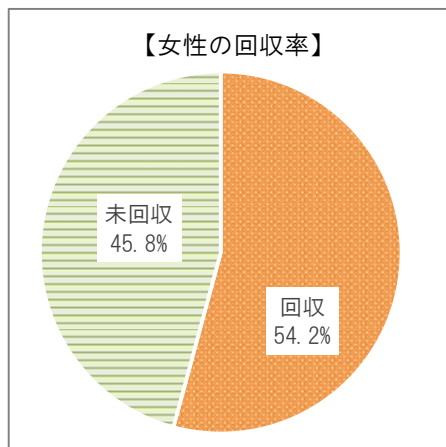
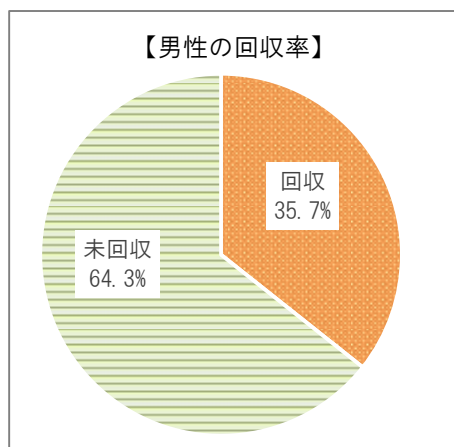
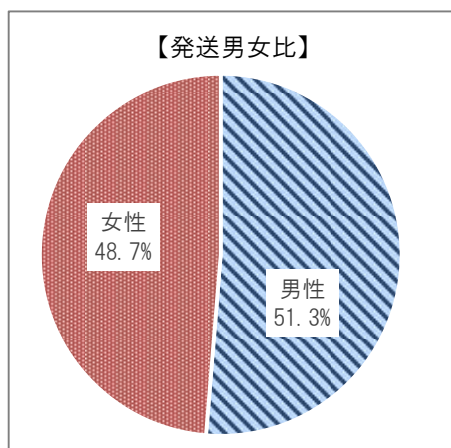
1.回収状況

性別×回収状況

性別での発送数は、男性が 513 人、女性が 487 人であり、男性にやや多く発送していた。

回収状況は、女性では発送分のうちの 54.2%であり、半数以上の方が返送していただいたことになる。反対に、男性の返送は 35.7%にとどまっており、性別による協力意識の差がみられる。

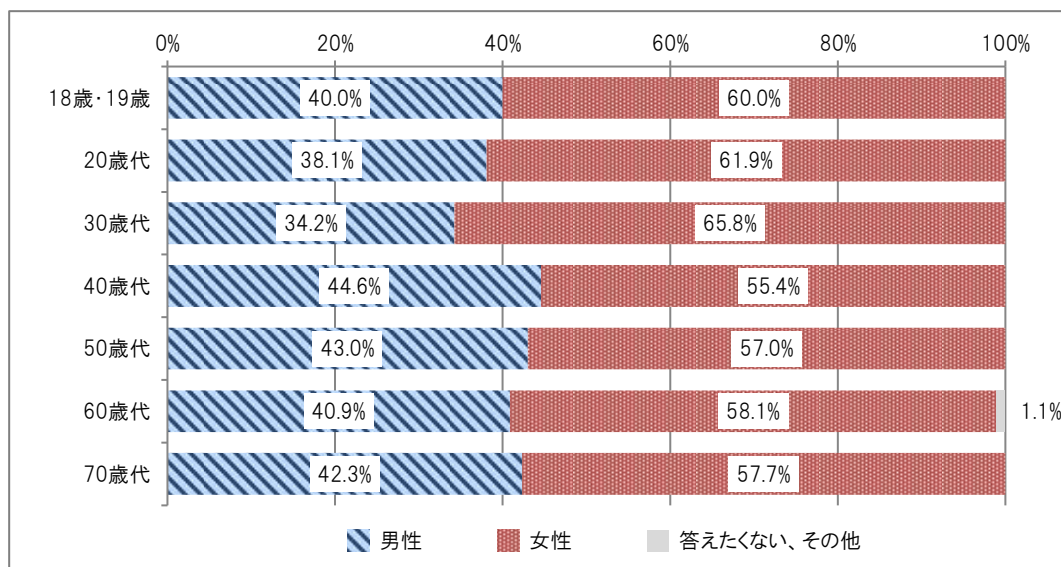
回答項目	発送		うち回収		うち未回収	
	(人)	構成比	(人)	構成比	(人)	構成比
男性	513	51.3%	183	35.7%	330	64.3%
女性	487	48.7%	264	54.2%	223	45.8%
答えたくない、その他			1			
無回答			2			
計	1,000	100.0%	450	45.0%	550	55.0%



2.性別と年齢

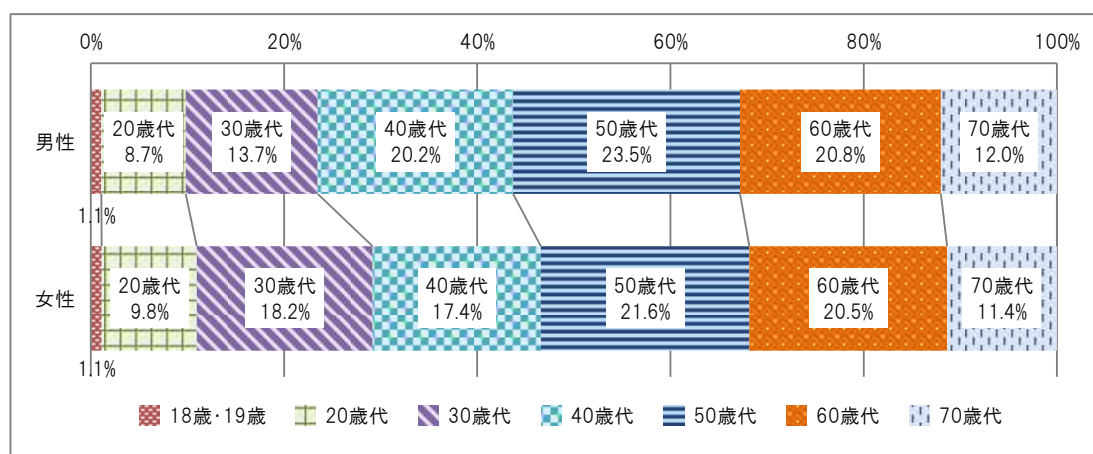
① 年齢×性別

どの年代においても女性の割合が高く、最も多くを占めているのは30歳代で、65.8%となっている。男性の割合が高いのは、40歳代が44.6%、50歳代が43.0%となっている。



② 性別×年齢

男女ともに50歳代、次いで60歳代が多くを占めている。性別による年代別構成の違いはあまり見られない。

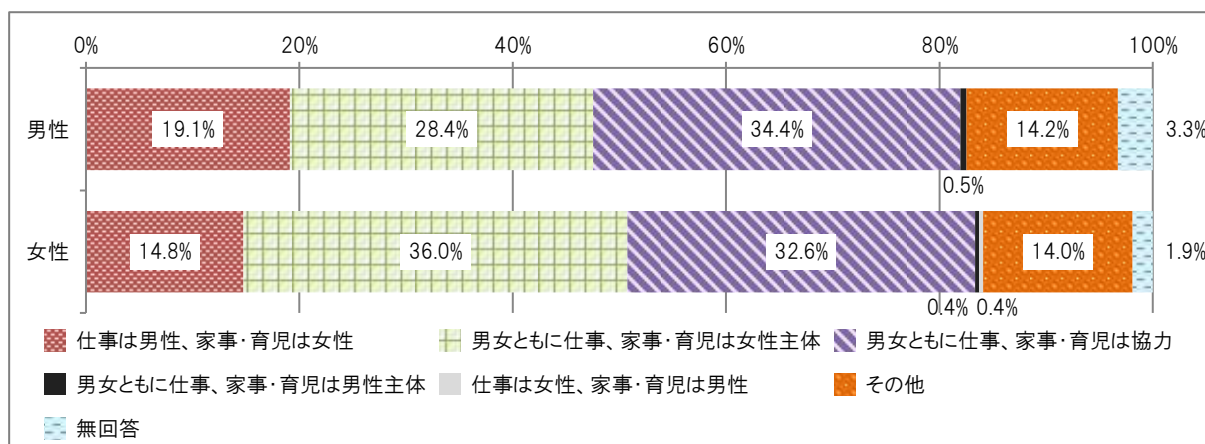


3.家庭内における仕事と家事の役割分担（問6）

あなたのご家庭では、仕事と家事の役割分担はどのようにしていますか。

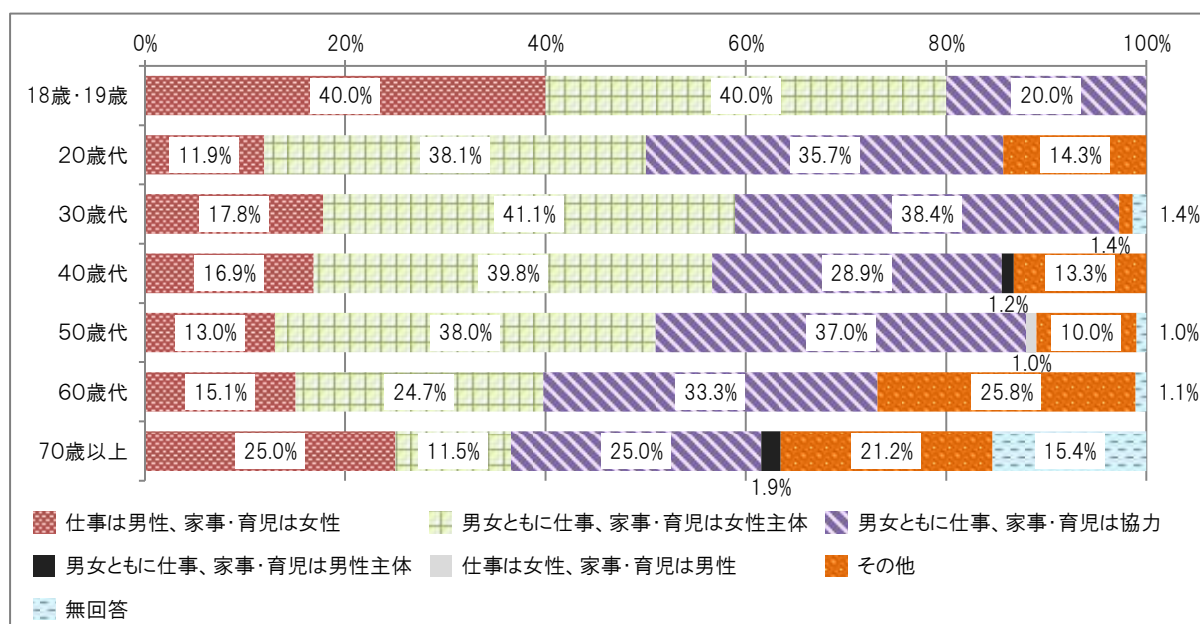
性別×問6

家庭での仕事と家事の役割分担について性別で比較すると、「仕事は男性、家事・育児は女性」という回答は、男性の方が高く 19.1%を占めている。反対に「男女ともに仕事、家事育児は女性主体」は男性の方が低く、女性の 36.0%の回答に対し 28.4%にとどまっている。「男女ともに仕事、家事・育児は協力」という回答は、やや男性の方が多く回答している。



年齢×問6

家庭での仕事と家事の役割分担について年齢別で比較すると、「仕事は男性、家事・育児は女性」の回答は、70歳以上が 25.0%と非常に高く突出している。「男女ともに仕事、家事・育児は女性主体」の回答を見ると、20歳代から 50歳代までは 40%程度の回答があるものの、60歳以上になると低くなっている。「男女ともに仕事、家事・育児は協力」の回答は、30歳代が最も高く 38.4%を占めており、次いで、50歳代、20歳代の順に高い。



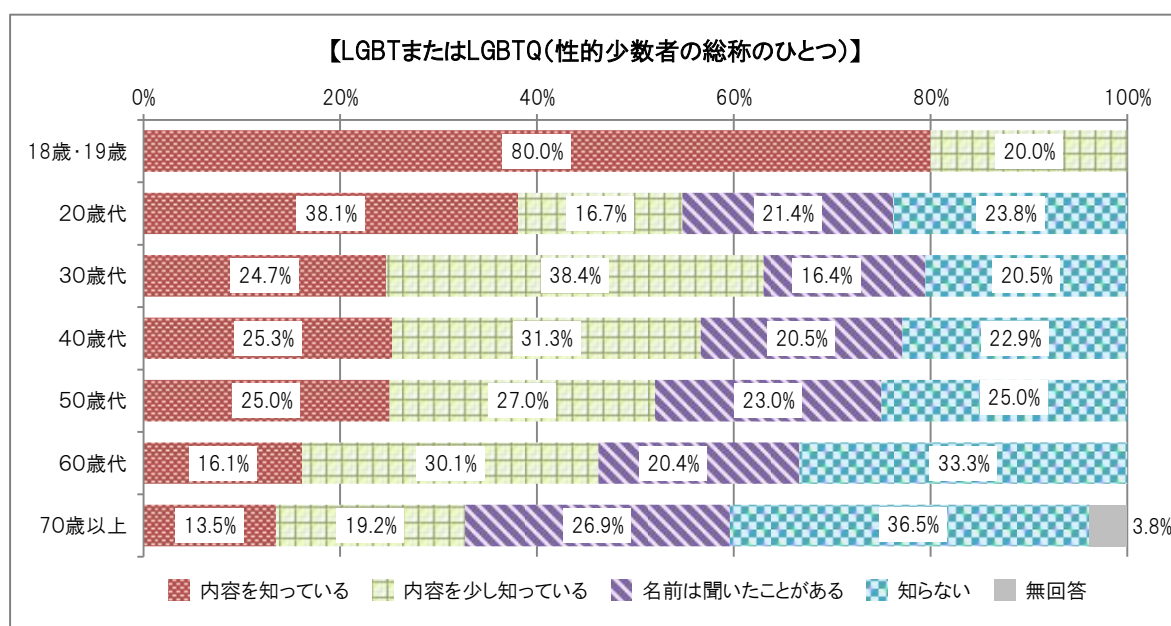
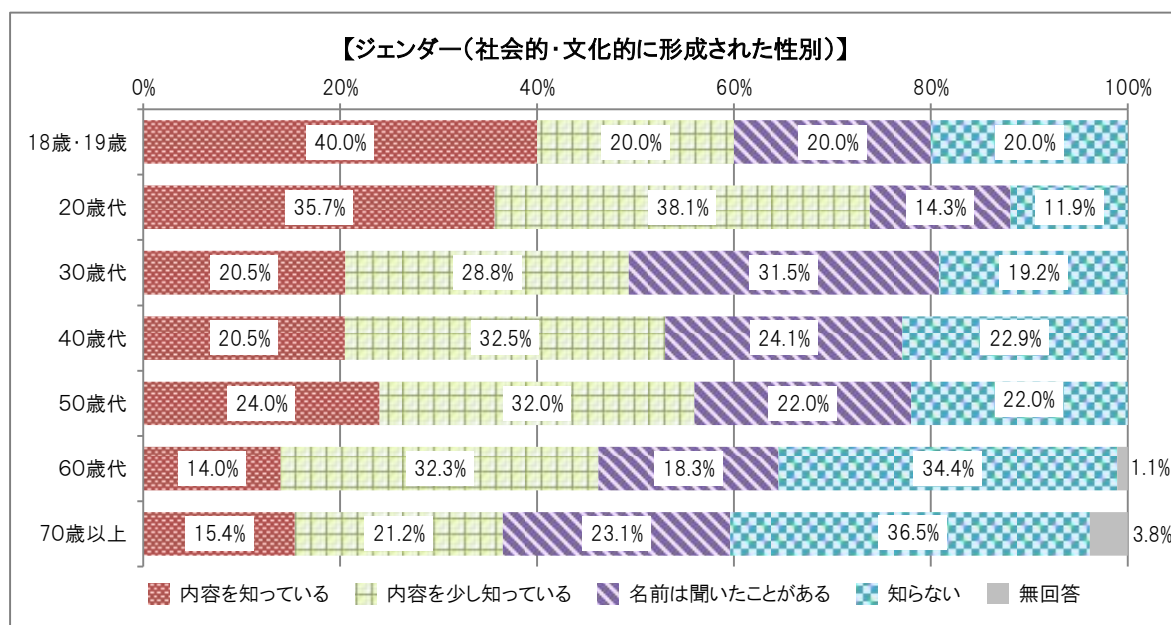
4.男女共同参画に関連する言葉の認知度（問7）

あなたは、次の言葉やことごとらについてご存じですか？あるいは聞いたことがありますか。

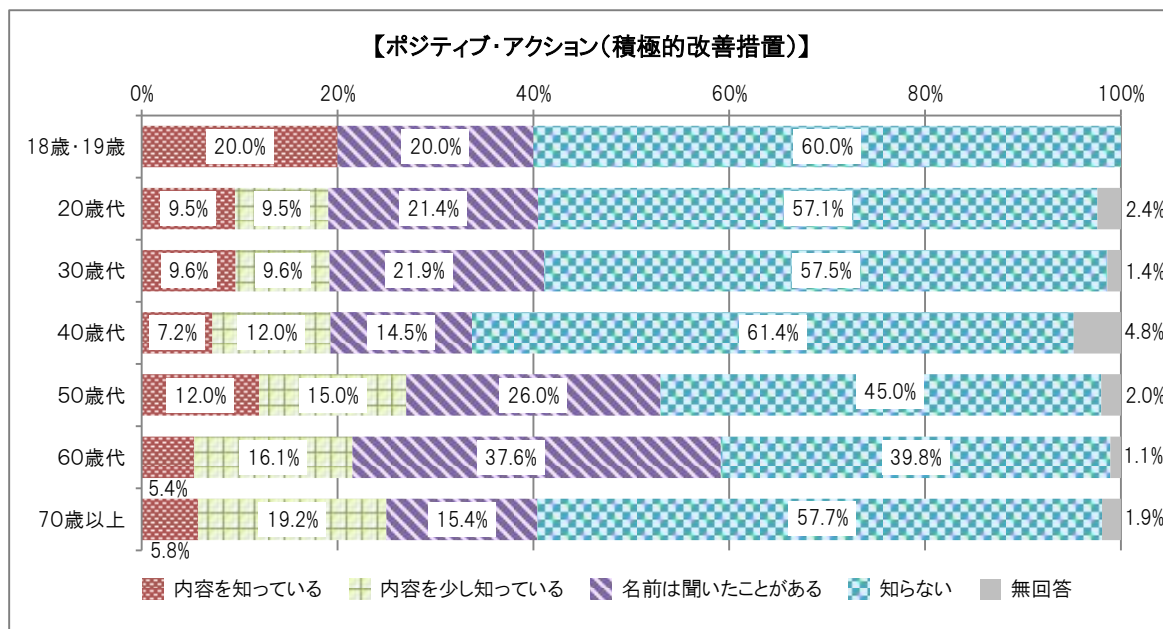
年齢×問7

男女共同参画に関する言葉の認知度が年齢で違いがあるもののうち、「ジェンダー」を見ると、20歳代は「内容を知っている」の回答が35.7%と高く、「名前は聞いたことがある」まで含めると、90%近くまで高い値を示す。60歳代、70歳代は「名前は聞いたことがある」までを含めても60%程度と低くなっている。

同様な傾向として、「LGBT または LGBTQ」については、20歳代は「内容を知っている」の回答が38.1%と高くなっている。ただし、「名前は聞いたことがある」までを含めると、50歳代までは年齢による認知度の差は見られない。



また、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」では、「内容を知っている」の回答は、50 歳代がやや高いものの、その他の年代にあまり差は見られない。しかし、「名前は聞いたことがある」の回答は、50 歳代、60 歳代が高くなっている。



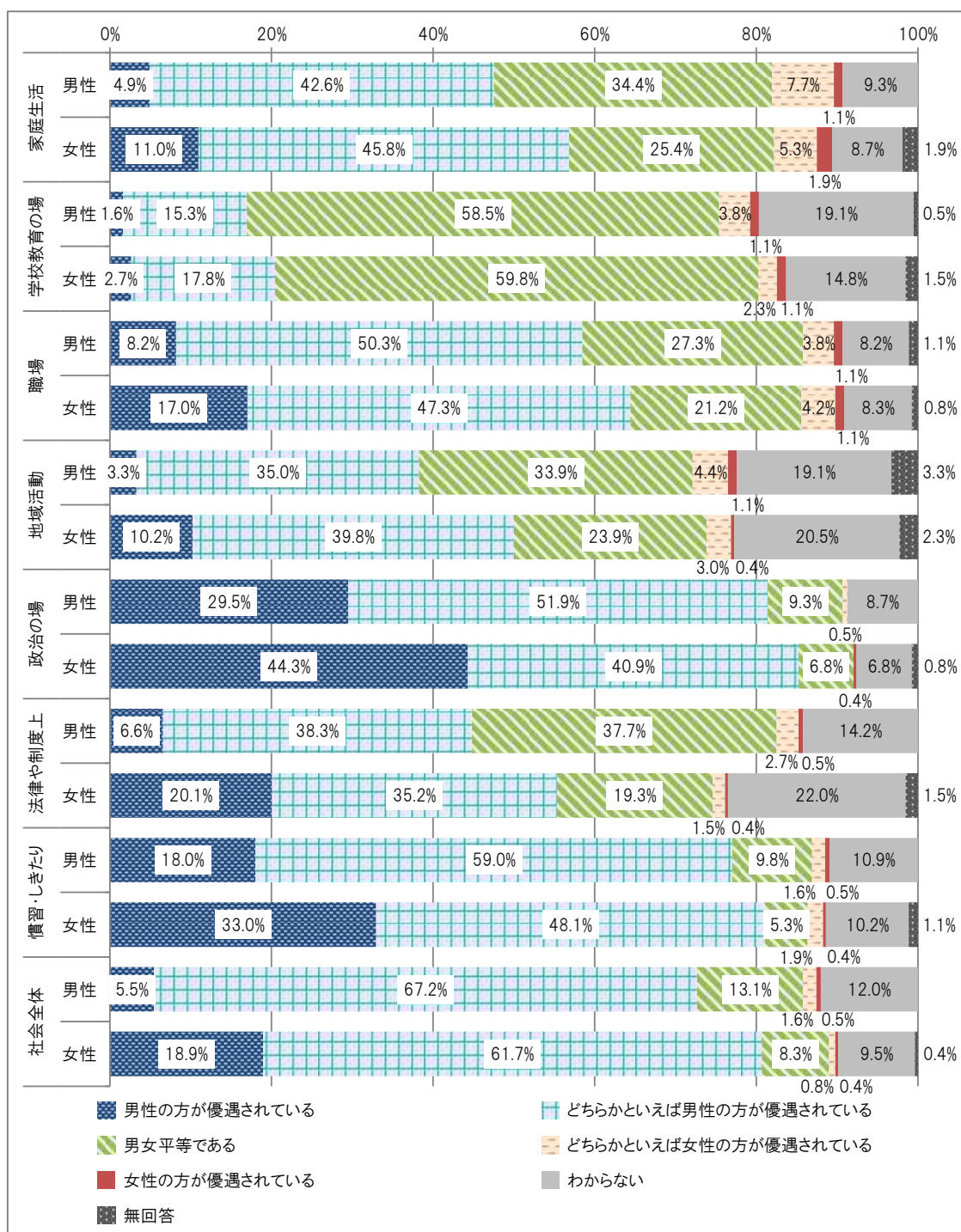
5.様々な立場や地位における平等感（問8）

あなたは、次にあげる分野で男女の地位や立場は平等になっていると思いますか。

性別×問8

様々な立場や地位における平等感について、性別による違いを見ると、「家庭生活」「職場」「政治の場」「法律や制度上」「社会通念・慣習・しきたり」及び「社会全体」において、「男性の方が優遇」と回答している女性が多く、男性の回答比と隔たりが大きい。

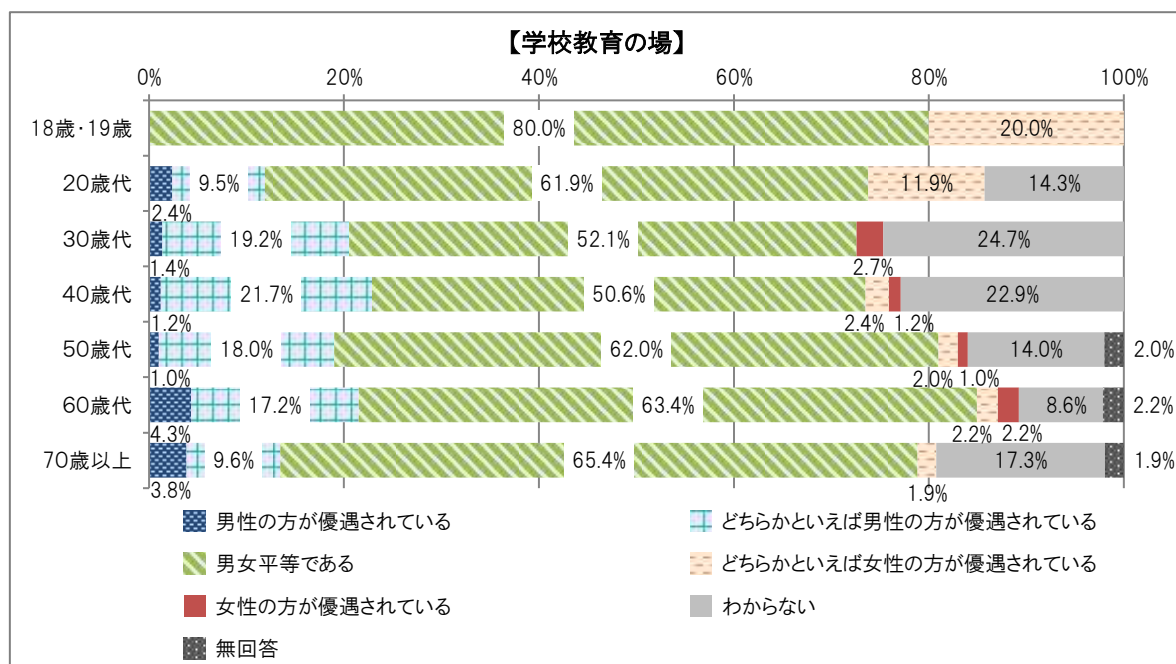
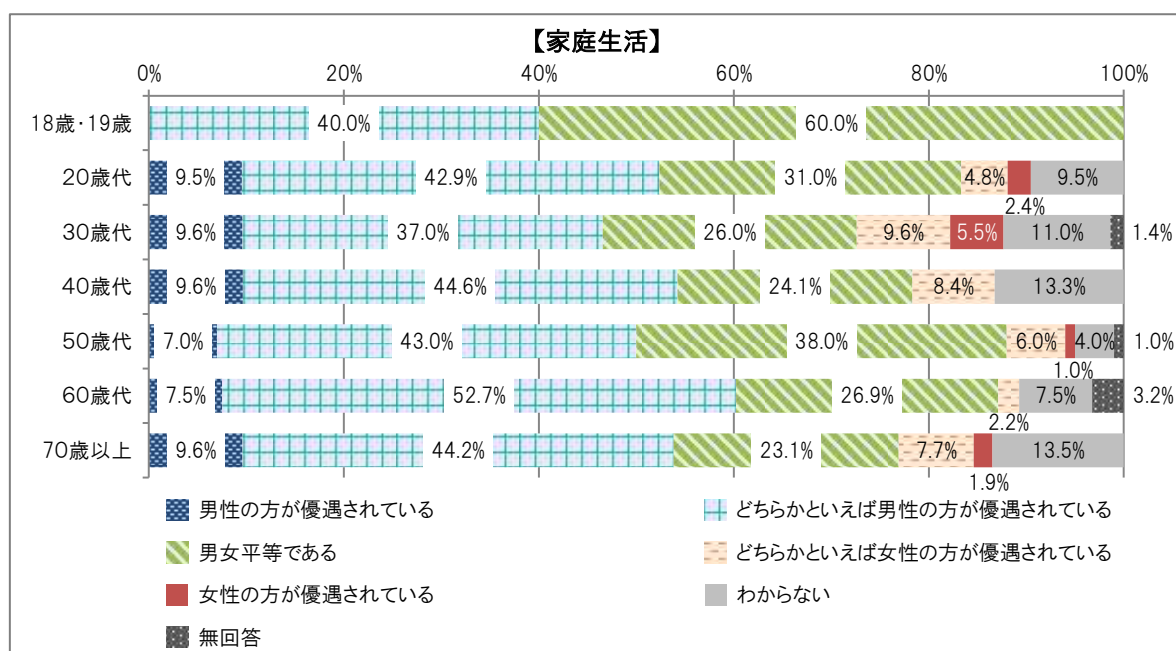
また、「家庭生活」「法律や制度上」「地域活動」について、「男女平等」との回答が男性の方が比較的多く、他の項目と比較して性別による平等感の認識の差が大きい。



年齢×問 8

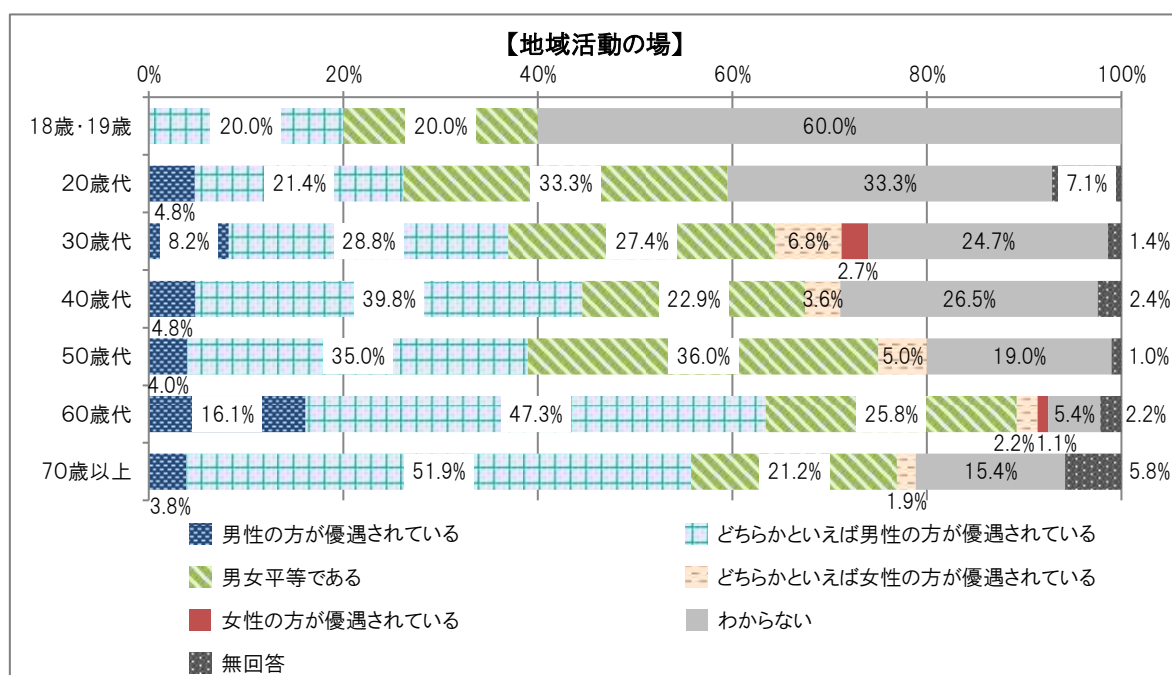
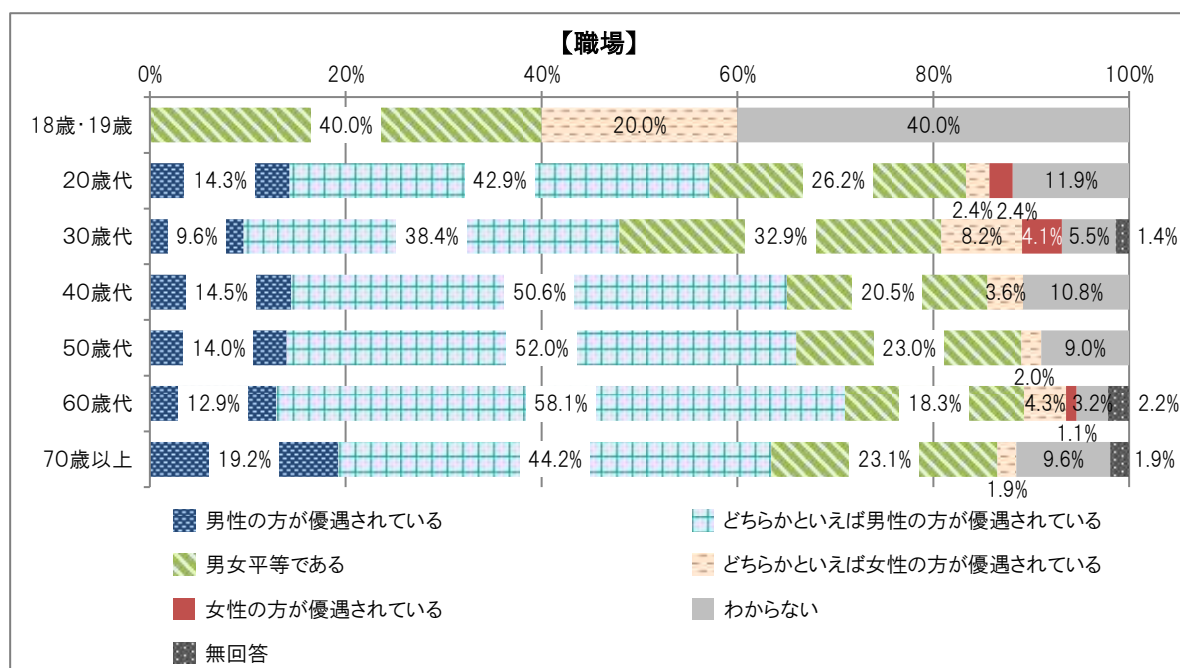
様々な立場や地位における平等感について、年齢別による違いを見ると、「家庭生活」では60歳代は「男性の方が優遇」「どちらかといえば男性」の合計が60%を超えている。反対に、30歳代は50%以下と最も低くなっており、「どちらかといえば女性」「女性の方が優遇」の回答が他の年代に比べ高くなっている。

「学校教育の場」では、すべての年代において「男女平等である」の回答が最も多く、「男性の方が優遇」及び「どちらかといえば男性」の回答が20%程度である年代が多いものの、20歳代は「どちらかといえば女性」の回答が11.9%となっている。



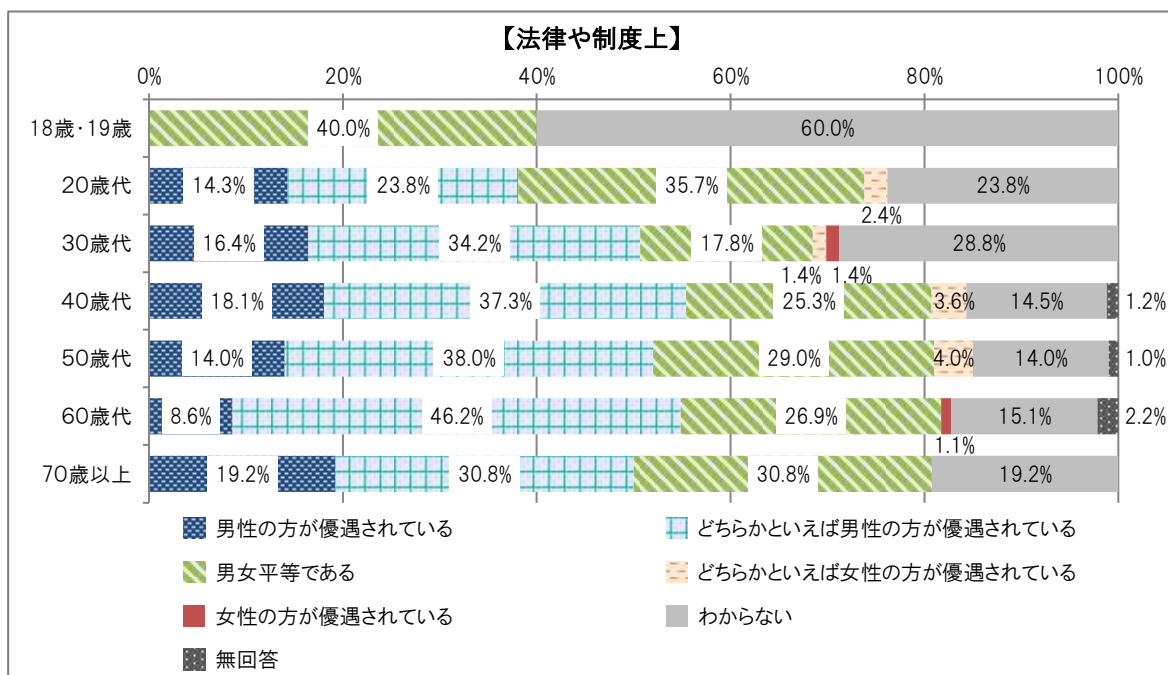
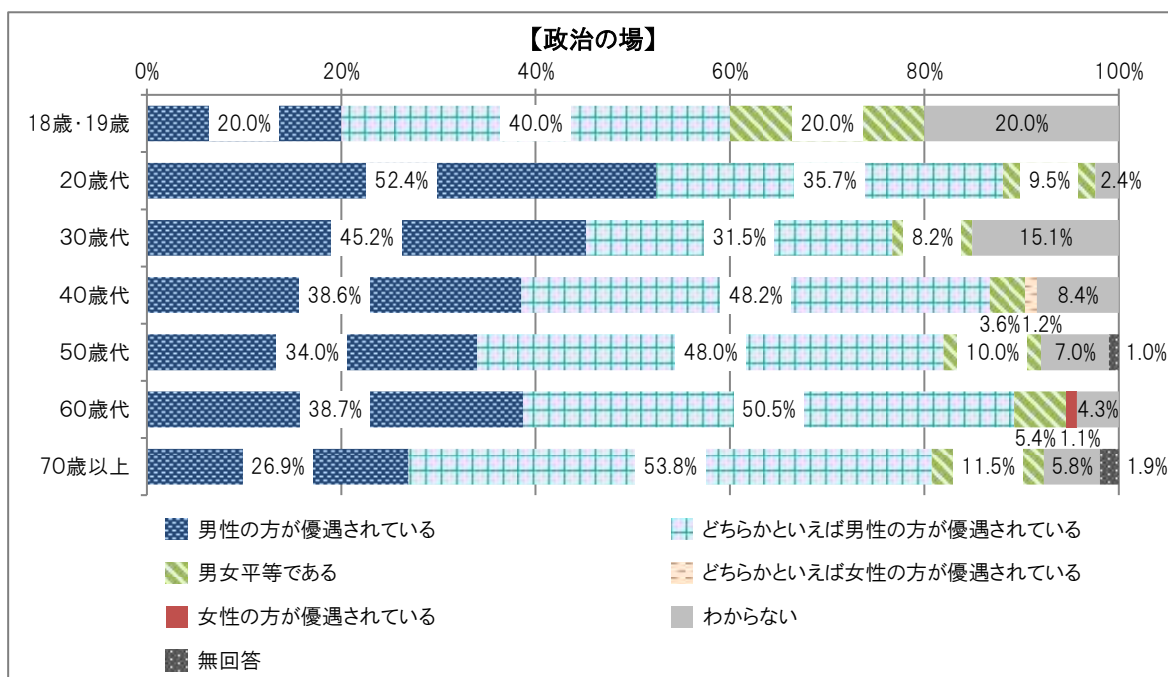
「職場」においては、40 歳代以上の年代で「男性の方が優遇」「どちらかといえば男性」の合計が 60%を超えているが、20 歳代、30 歳代は「男女平等である」の回答が比較的高くなっている。30 歳代においては、「どちらかといえば女性」「女性の方が優遇」の合計が 12.3%となっている。

また、「地域活動の場」では、60 歳代が「男性の方が優遇」が 16.1%を占めており、「どちらかといえば男性」の合計が 60%を超えている。「男女平等」の回答が高いのは 20 歳代と 50 歳代であり、ともに 30%を超えている。



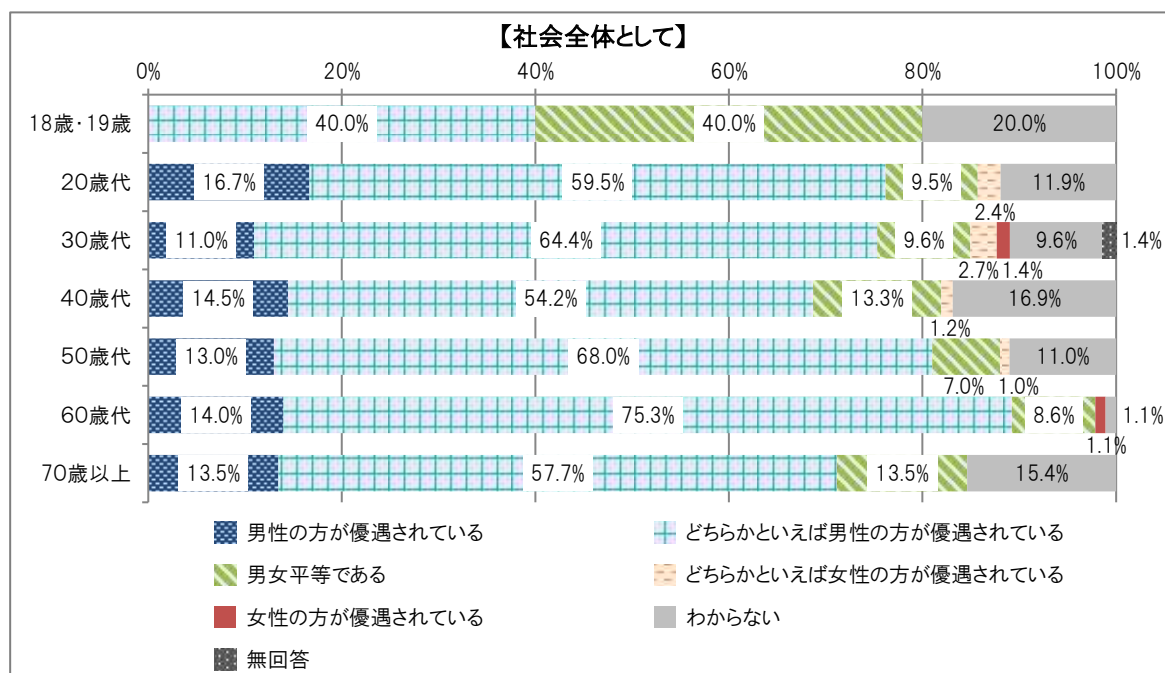
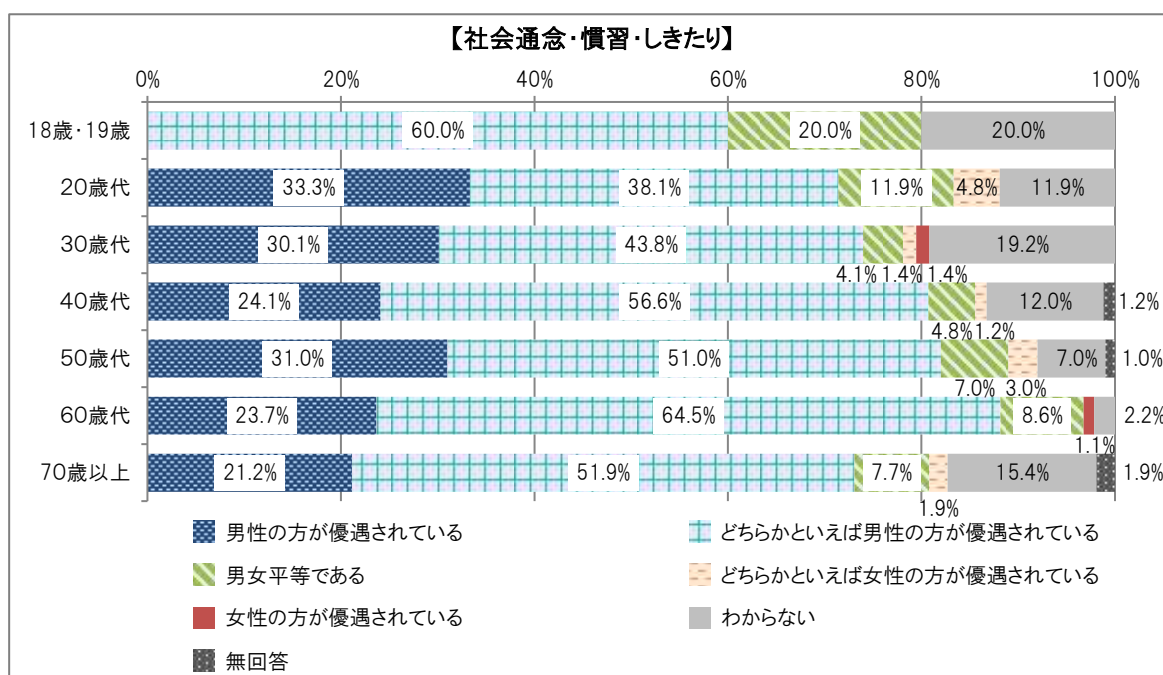
「政治の場」においては、概ね年齢が高くなるにつれ「男性の方が優遇」の回答が低くなっていく反面、「どちらかといえば男性」の回答が高くなってきている。

「法律や制度上」では、20歳代以外の年代は「男性の方が優遇」「どちらかといえば男性」の合計が50%を超えている。「男女平等」は20歳代が最も高く、30歳代が最も低くなっている。



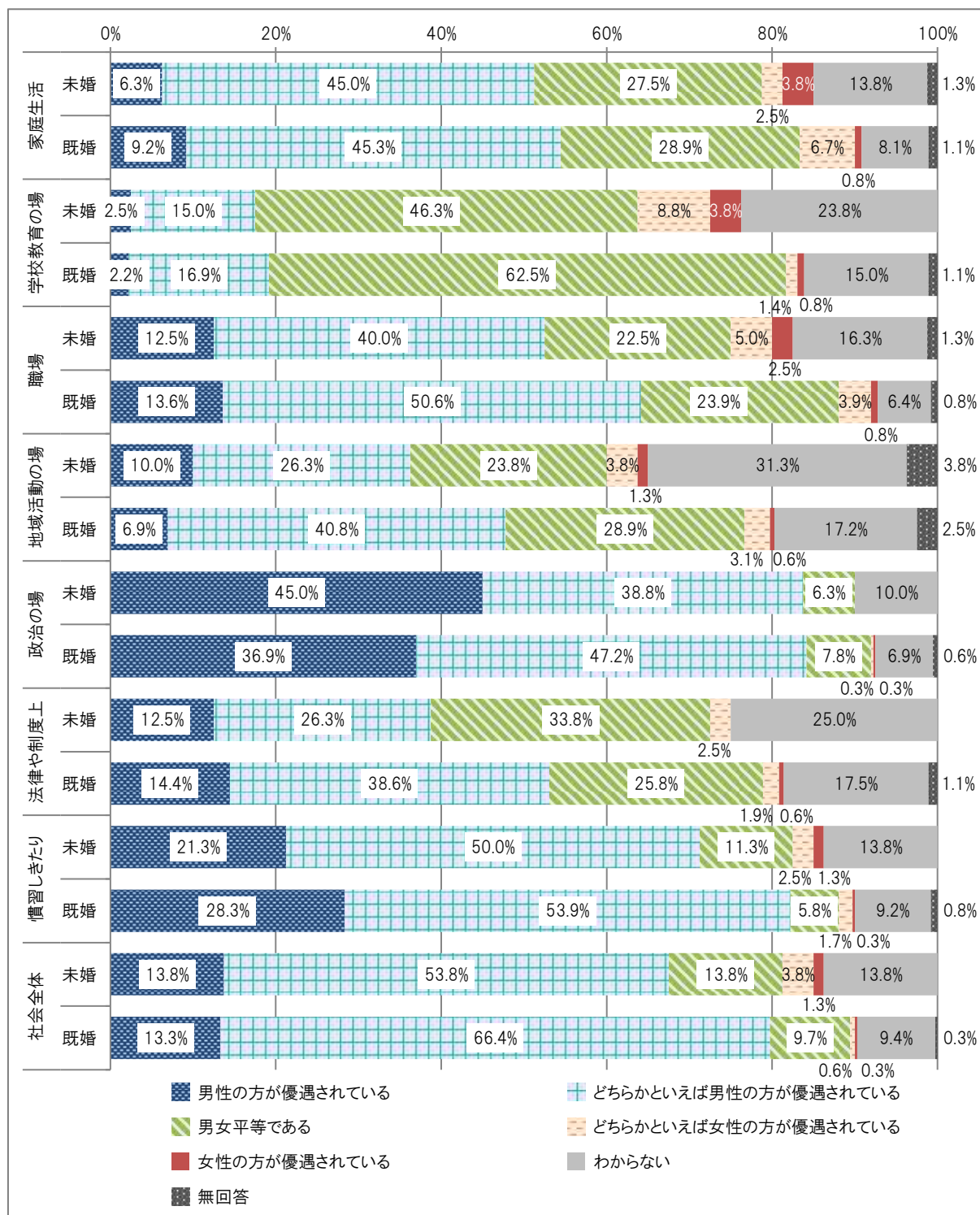
「社会通念・慣習・しきたり」では、年齢が高くなるにつれ「男性の方が優遇」が低くなり、反対に「どちらかといえば男性」が高くなっていく傾向が見られる。「男性の方が優遇」「どちらかといえば男性」の合計も、年齢が高くなるにつれ多くなっている。

「社会全体として」の年齢別での違いは、あまり見られない。



結婚状況×問8

様々な立場や地位における平等感について、結婚状況による違いを見ると、「職場」「地域活動の場」「法律や制度上」「社会通念・慣習・しきたり」及び「社会全体」が既婚の方が「男性の方が優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」との回答が多くなっており、未婚者との違いが見られる。

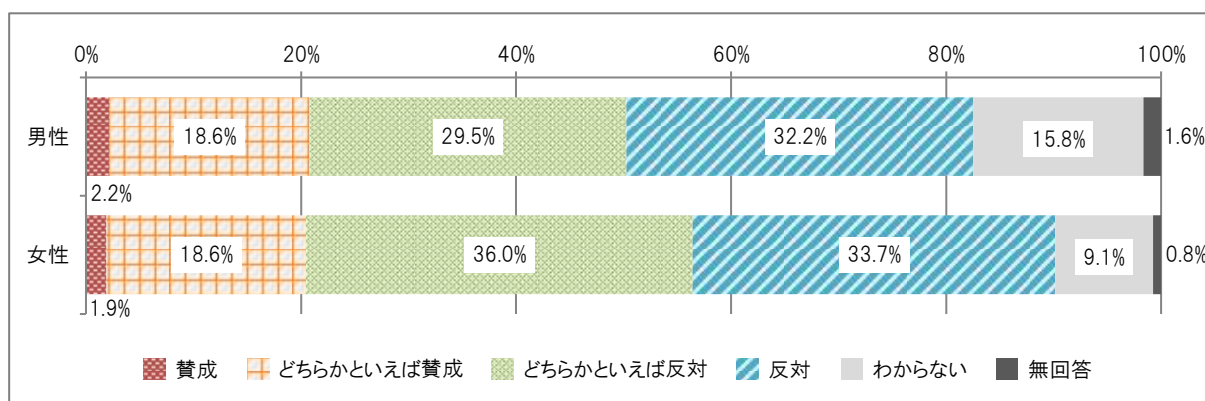


6.性別によって役割を固定する考え方（問 10）

あなたは「男は仕事、女は家庭」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。

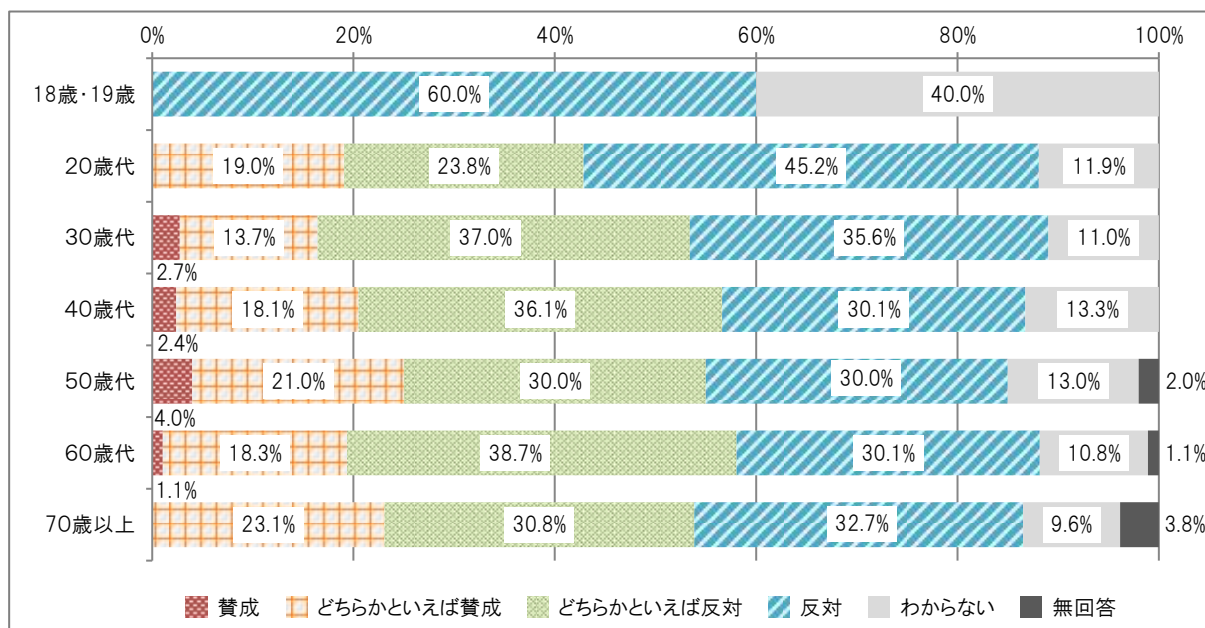
性別×問 10

性別によって役割を固定する考え方について男女での違いを見ると、「賛成」「どちらかといえば賛成」の回答に違いは見られない。「どちらかといえば反対」は、男性が 29.5%、女性が 36.0%となっており、また、「どちらかといえば反対」「反対」を合計すると男性が 61.7%、女性が 69.7%となっており、女性の方が反対という考えが高くなっている。



年齢×問 10

性別によって役割を固定する考え方について年齢別で見ると、「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計は 50 歳代、70 歳代以上がやや高く、「反対」「どちらかといえば反対」の合計は 20 歳代、30 歳代、60 歳代が高くなっている。



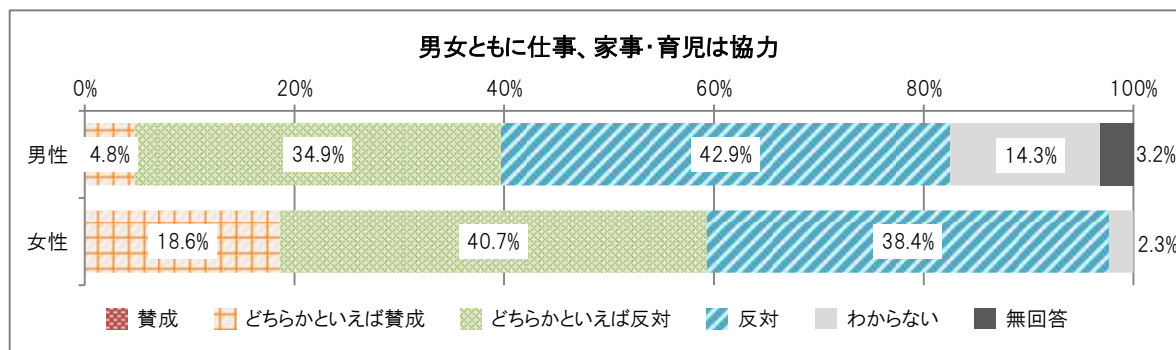
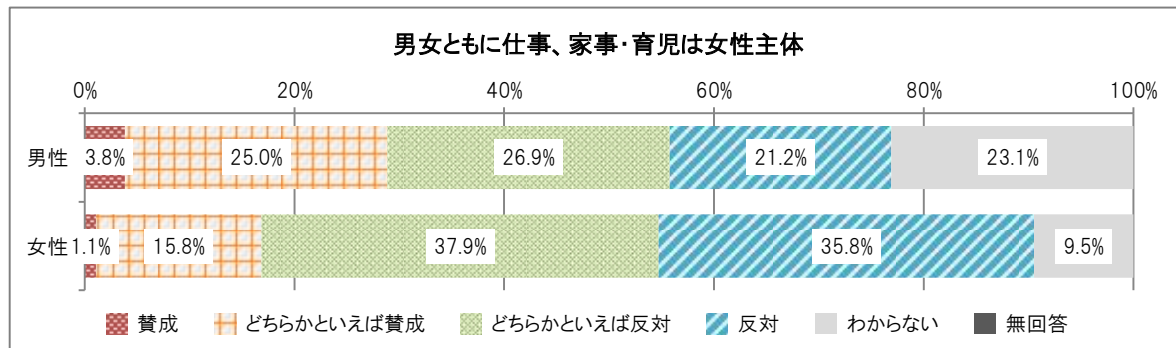
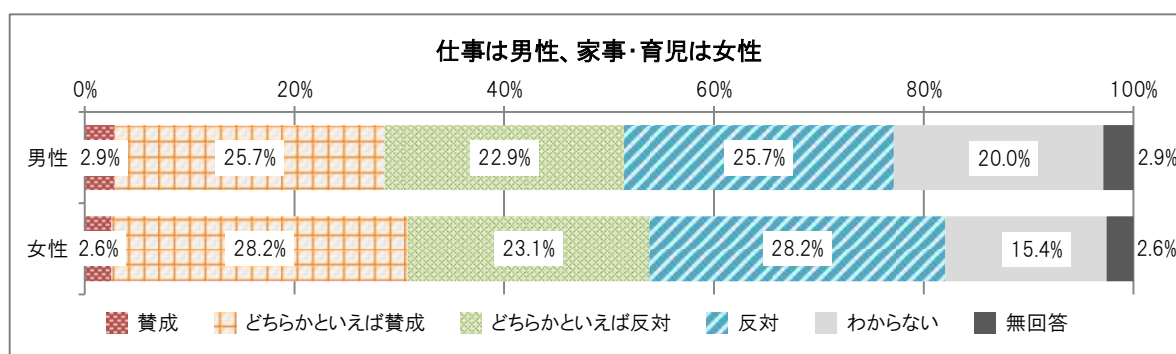
性別×家庭での家事の役割分担（問6）×問10

問6：あなたのご家庭では、仕事と家事の役割分担はどのようにしていますか。

家庭での家事の役割分担の違いと役割を固定する考え方の違いを性別で見ると、「仕事は男性、家事・育児は女性」の分担の家庭では、大きな差は見られない。

「男女ともに仕事、家事・育児は女性主体」の分担の家庭では、女性の方が「どちらかといえば反対」「反対」が多く、73.7%を占めているものの、男性は48.1%にとどまっている。

また、「男女ともに仕事、家事・育児は協力」の分担の家庭では、「どちらかといえば賛成」の回答が男性では4.8%、女性では18.6%と、女性の方が多くなっている。

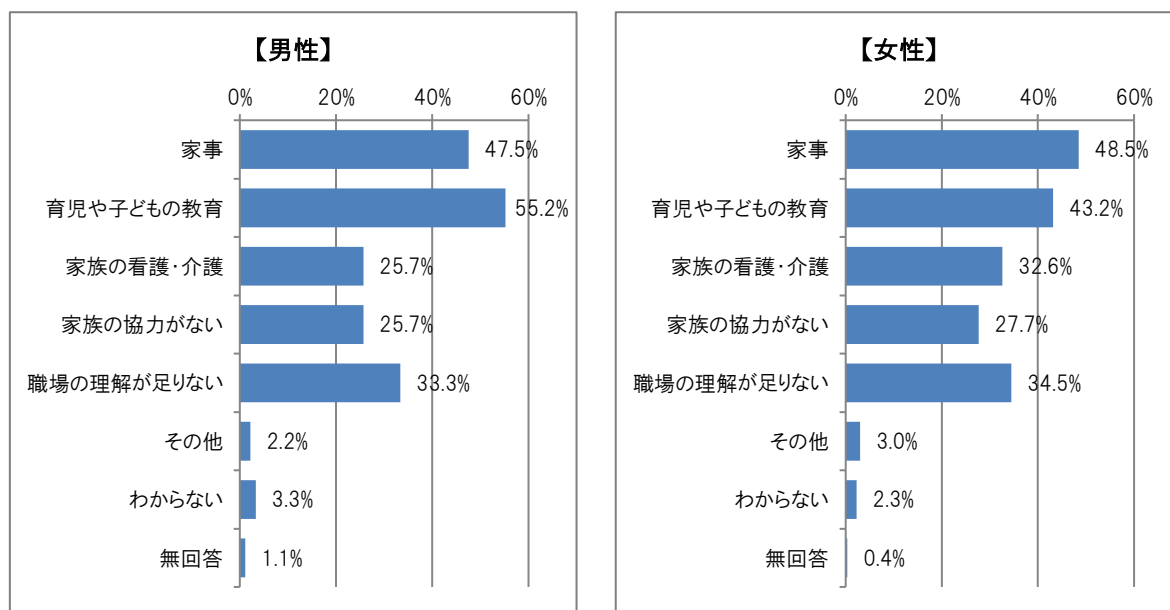


7.女性が家庭と仕事の両立に負担となっていること（問 11）

あなたは女性が家庭と仕事を両立させて働き続ける上で、負担となっていることは何だと思われますか。次の中から2つまで選んでください。（複数回答）。

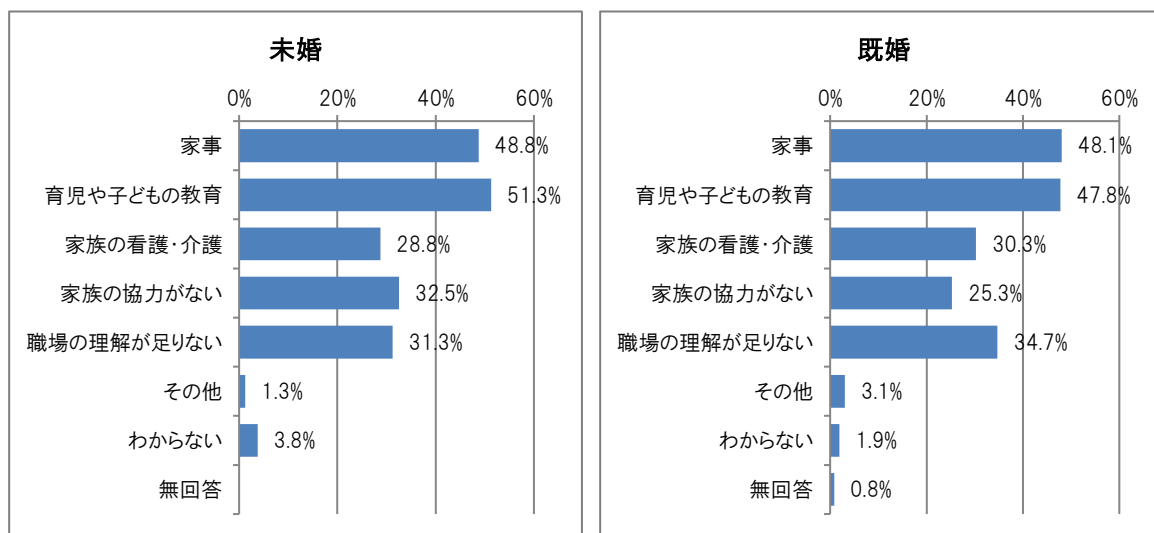
性別×問 11

女性が家庭と仕事を両立させて働き続ける上で負担となっている事柄について、性別による違いを見ると、男性は「育児や子どもの教育」55.2%、「家事」47.5%の順に多くなっている。女性は「家事」が最も多く、次いで「育児や子どもの教育」となっている。また、「家族の看護・介護」では、男性は25.7%、女性は32.6%と差が見られる。



結婚状況×問 11

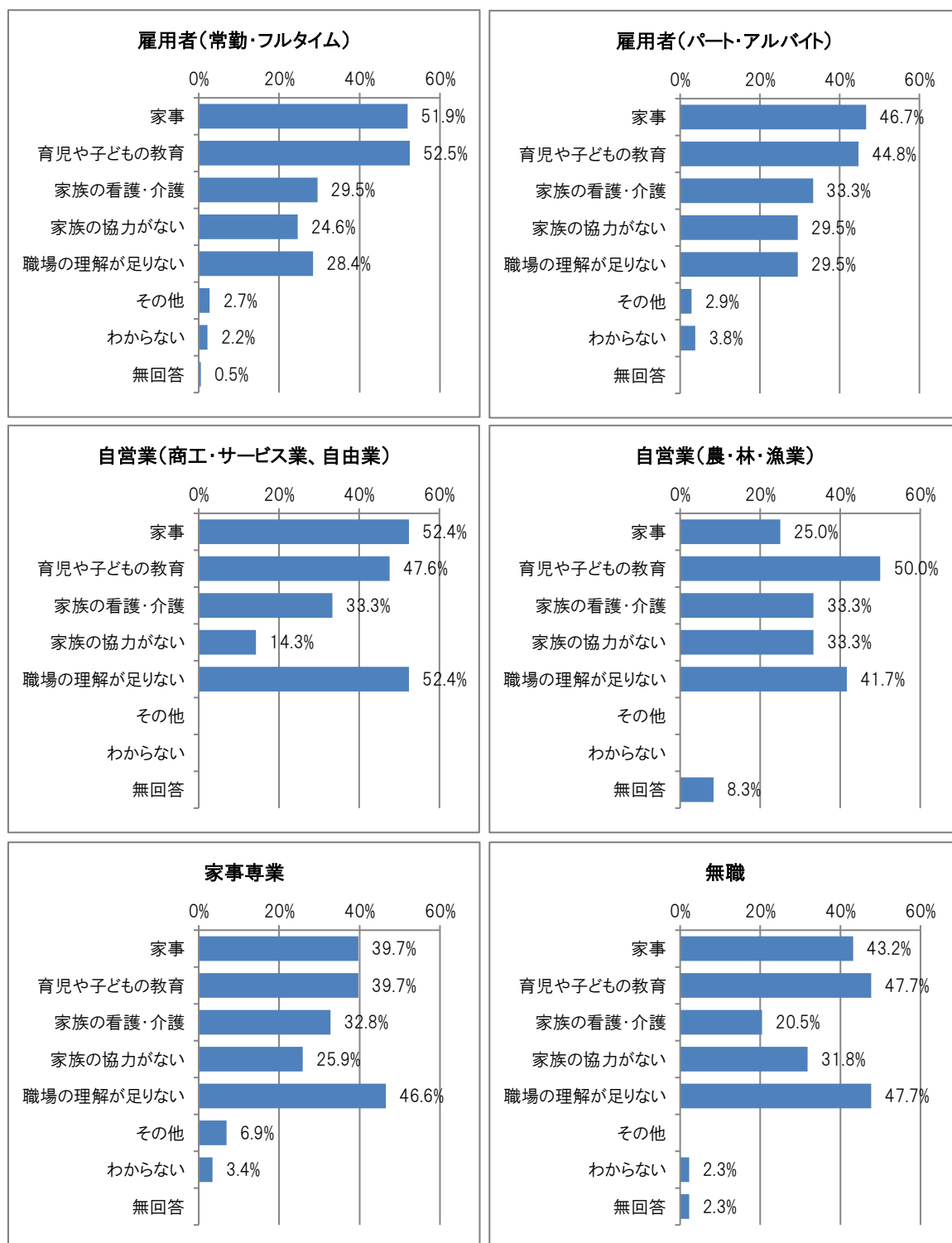
女性が家庭と仕事を両立させて働き続ける上で負担となっている事柄について、既婚・未婚での違いを見ると、「育児や子どもの教育」「家族の協力がいない」の回答は未婚の方が高く、順に51.3%、32.5%となっている。



職業×問 11

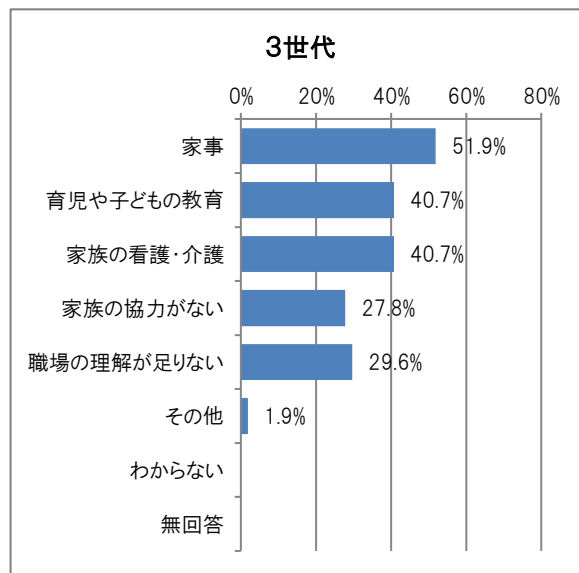
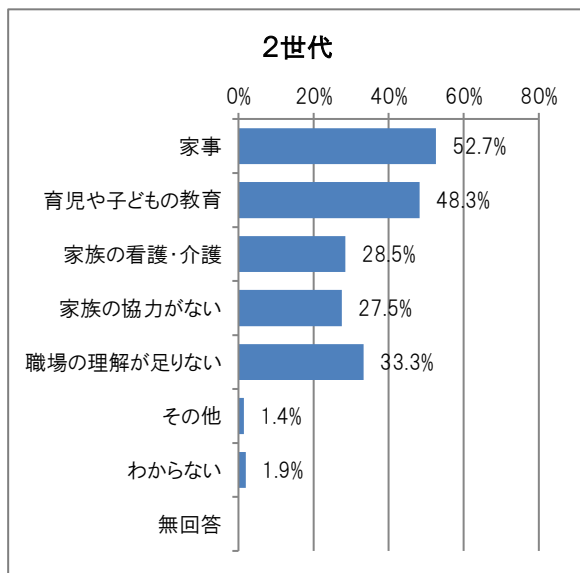
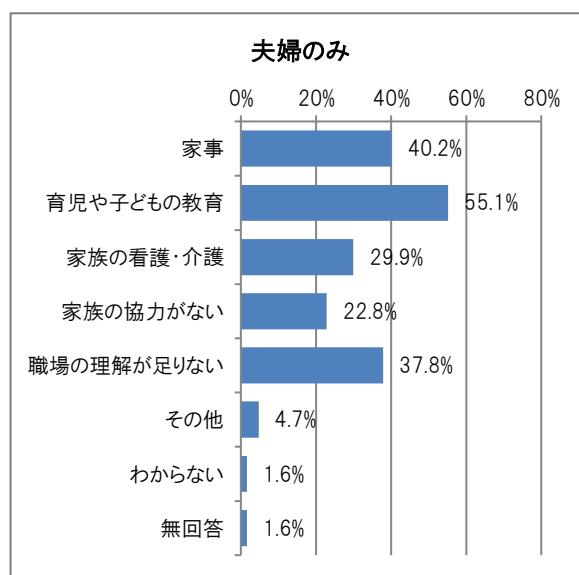
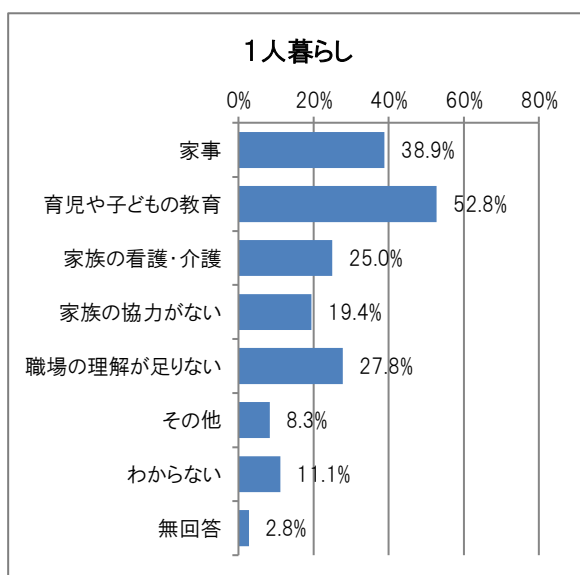
女性が家庭と仕事を両立させて働き続ける上で負担となっている事柄について、職業での違いを見ると、「職場の理解が足りない」の回答が高いのは「自営業（商工・サービス業・自由業）」「家事専業」「無職」であり、半数近い数値となっている。「雇用者」は30%未満にとどまっている。

また、「家族の協力がない」について、「自営業（商工・サービス業・自由業）」は14.3%と低くなっているが、その他の職業では職業による違いはあまり見られない。



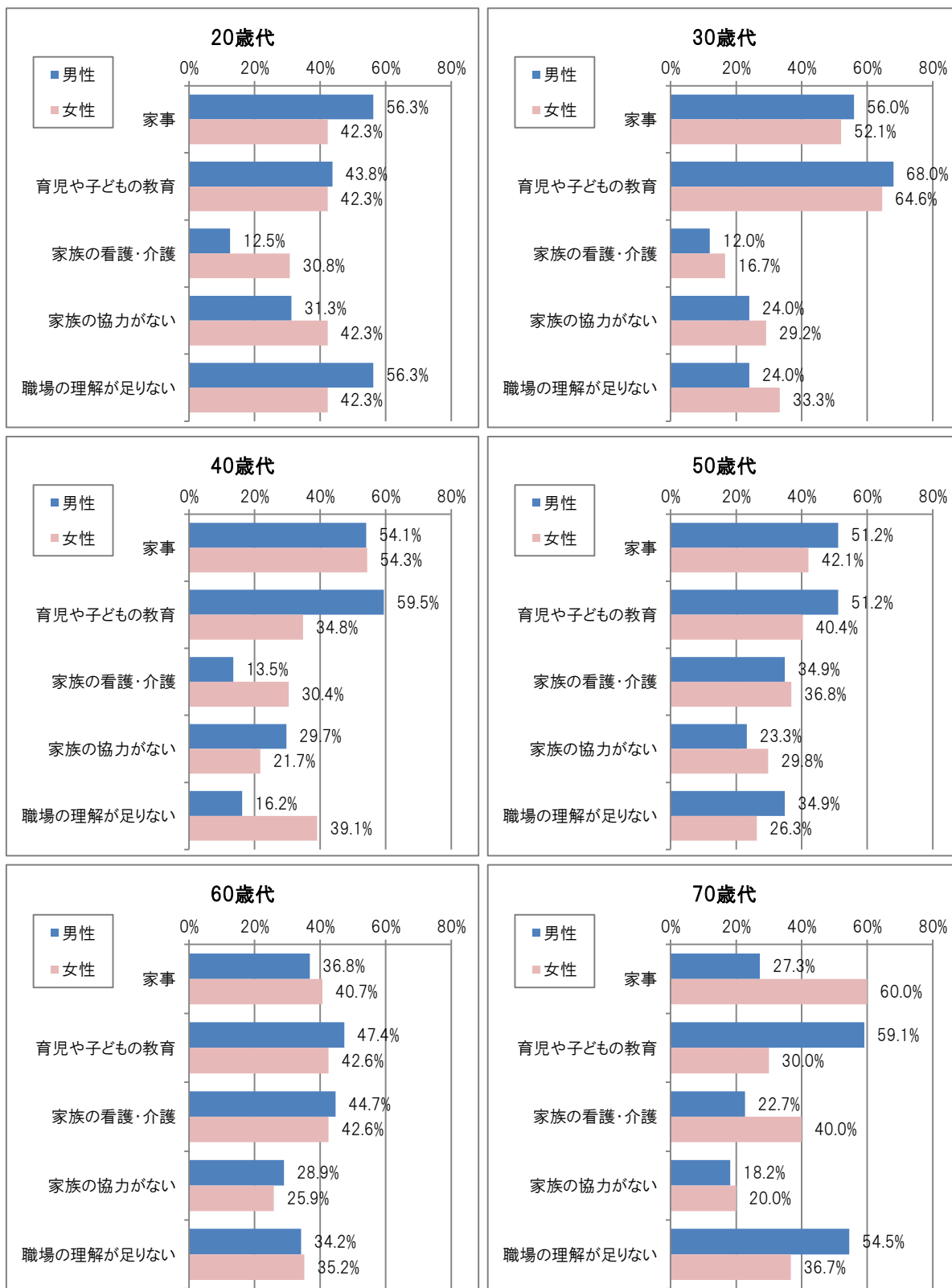
家族構成×問 11

女性が家庭と仕事を両立させて働き続ける上で負担となっている事柄について、家族構成での違いを見ると、「家事」の回答が高いのは「2世代」「3世代」の世帯であり、ともに50%を超えている。「1人暮らし」や「夫婦のみ」の世帯は「家事」の回答はやや低めであり、「育児や子どもの教育」の回答が高くなっている。



性別×年齢×問 11

女性が家庭と仕事を両立させて働き続ける上で負担となっている事柄について、「育児や子どもの教育」では男女ともに「30 歳代」が多く、60%を超えている。「育児や子どもの教育」は全ての年齢において男性の方が多く回答しており、反対に女性の方が多く回答しているのは「家族の看護・介護」「家族の協力がない」となっている。

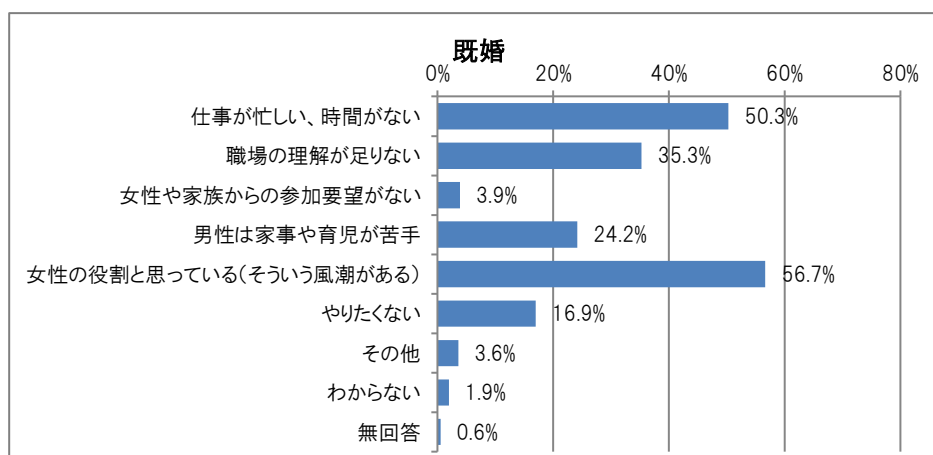
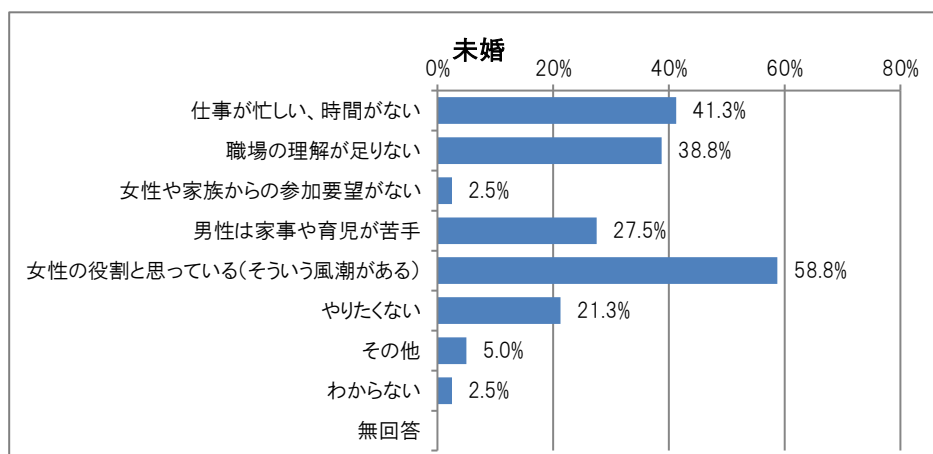


8.男性が家事や子育てに積極的に参加できない理由（問 12）

あなたは多くの男性が家事や子育て・介護などに積極的に参加しない(できない)現状について、理由は何だと思われますか。次の中から2つまで選んでください。（複数回答）

結婚状況×問 12

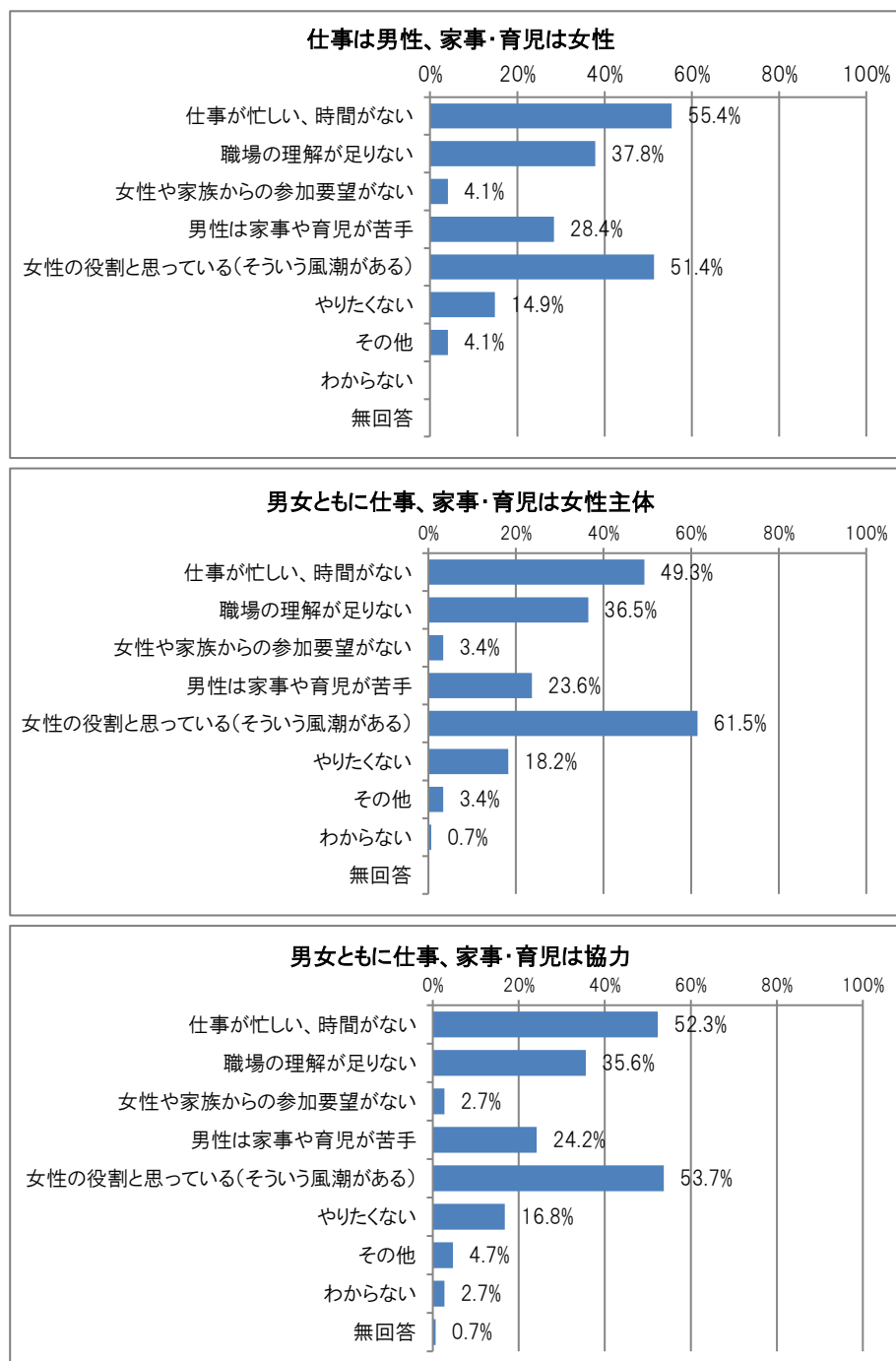
男性が家事や子育てに積極的に参加できない理由について、未婚・既婚に関わらず「女性の役割と思っている（そういう風潮がある）」が最も高く、次いで「仕事が忙しい、時間がない」になっており、結婚状況での違いはあまり見られない。



家庭での家事の役割分担（問6）×問12

問6：あなたのご家庭では、仕事と家事の役割分担はどのようにしていますか。

男性が家事や子育てに積極的に参加できない理由について、実際の家事分担の状況による違いを見ると、「仕事は男性、家事・育児は女性」の世帯の人は「仕事が忙しい、時間がない」の回答が最も高くなっている。「女性の役割と思っている（そういう風潮がある）」の回答が多いのは「男女ともに仕事、家事・育児は女性主体」の世帯の人であり、61.5%を占めている。「男女ともに仕事、家事・育児は協力」の世帯の人でも、「女性の役割と思っている（そういう風潮がある）」との回答が最も高くなっている。

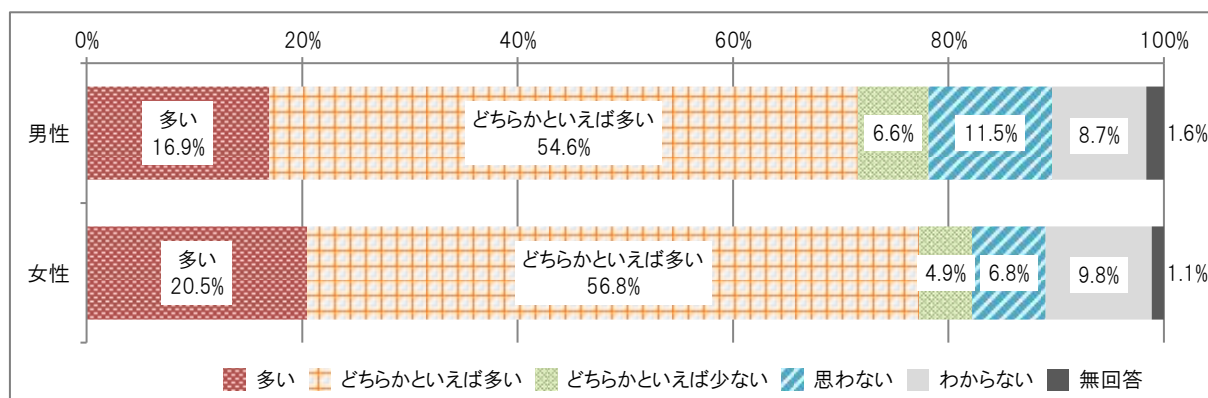


9.重要なポストや決定権などへの女性登用について（問 14）

女性には能力があっても重要なポストにつけなかったり、決定権を与えられなかったりすることが多いと思いますか。

性別×問 14

重要なポストや決定権などへの女性登用について性別での違いを見ると、回答の傾向に違いは見られないが、女性の方が「多い」「どちらかといえば多い」の回答が多くなっている。男性は「思わない」の回答が女性の6.8%と比較して11.5%と高くなっている。

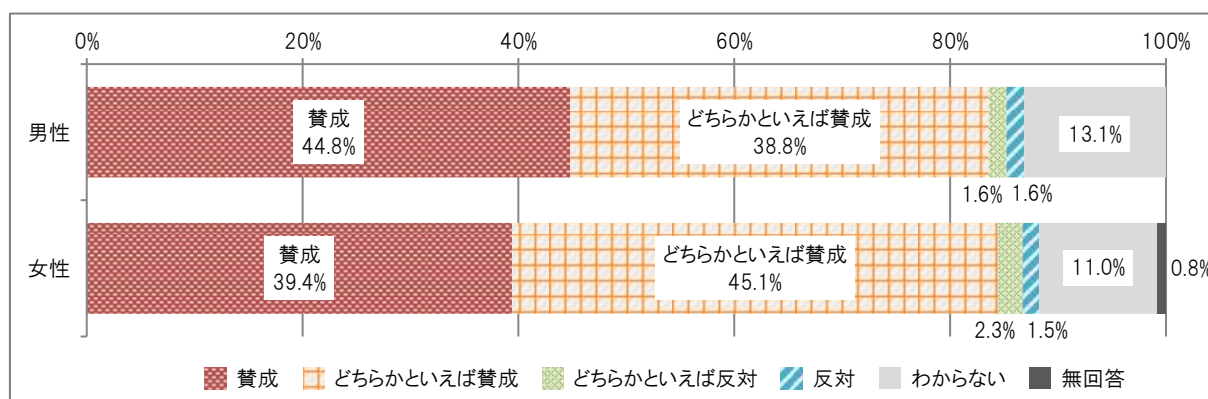


10.国や自治体における女性登用について（問 15）

あなたは「国や自治体は各種の審議会や委員会にもっと多くの女性を登用する必要がある」という考え方について、どう思いますか。

性別×問 15

国や自治体における女性登用について性別での違いを見ると、回答の傾向に違いは見られないが、男性は「賛成」の回答が最も高く、44.8%となっている。女性は「どちらかといえば賛成」が45.1%となっている。

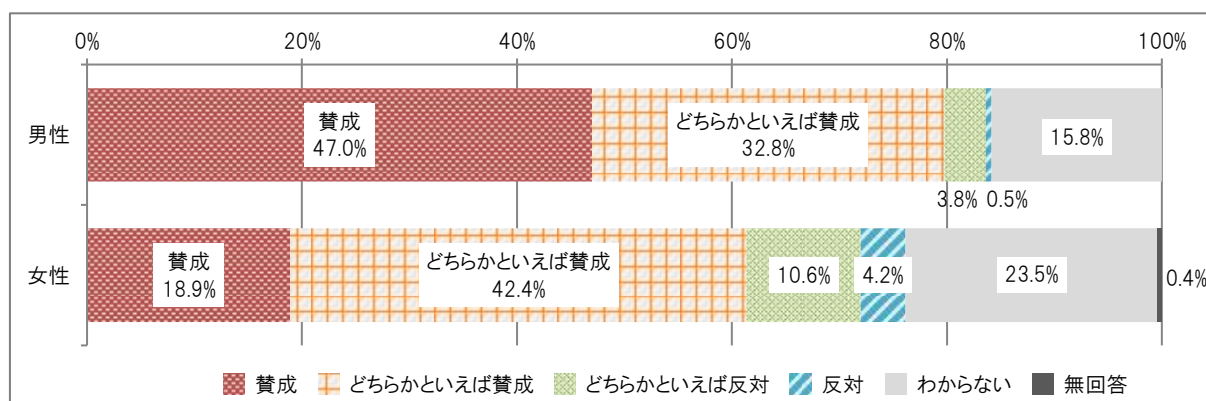


11.区の役員やPTA会長などへの女性進出について（問 16）

あなたは、「区の役員やPTAなどの会長にもっと女性が進出する必要がある」という考え方について、どう思いますか。

性別×問 16

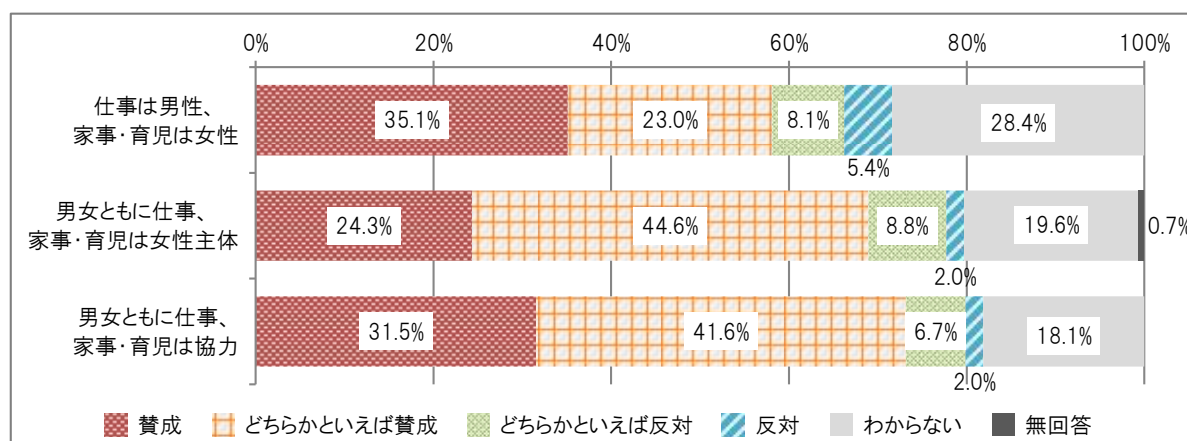
区の役員やPTA 会長などへの女性進出について性別での違いを見ると、男性は「賛成」が最も多く 47.0%を占めており、「どちらかといえば賛成」を合計すると 79.8%まで高くなっている。反対に女性は「どちらかといえば賛成」が 42.4%と高いものの「賛成」が 18.9%にとどまっている。「どちらかといえば反対」「反対」の合計は 14.8%であり、男性の 4.3%を大きく引き離している。



家庭での家事の役割分担（問 6）×問 16

問 6：あなたのご家庭では、仕事と家事の役割分担はどのようにしていますか。

区の役員や PTA 会長などへの女性進出について、実際の家事分担の状況による違いを見ると、「賛成」の回答が最も多いのは「仕事は男性、家事・育児は女性」が 35.1%となっているものの「どちらかといえば賛成」とを合計した値では「男女ともに仕事、家事・育児は協力」の回答が 73.1%と最も高くなっている。



性別×家庭での家事の役割分担（問6）×問16

前項を性別で見ると、家事の役割分担の状況に関わらず、男性の方が「賛成」「どちらかといえば賛成」の回答が高くなっており、半数近い男性が「賛成」と回答している。その反面、女性は男性に比べ「反対」の回答が多い。

「仕事は男性、家事・育児は女性」の世帯は、家事・育児に関して少なからず男性の協力がある世帯と比較して「賛成」「どちらかといえば賛成」が男女ともに比較的低く、女性の「どちらかといえば反対」「反対」の合計は20.5%まで高くなっている。

